



福井高専

令和5年度 創造教育開発センター 年 次 報 告 書

独立行政法人国立高等専門学校機構
福井工業高等専門学校

令和 5 年度（2023 年度） 創造教育開発センター活動のまとめ

令和 5 年度創造教育開発センター長 米田知晃

1. はじめに

本センターは、2007 年度（平成 19 年度）に FD 委員会、教育改善委員会等の役割を統合し、発足したセンターである。現在本センターでは、次の項目を業務内容として挙げている。

- (1) 教育改善、FD 及び学習支援に関すること。
- (2) 教育課程の調査・検討に関すること。
- (3) メディア教育に関すること。
- (4) 教員間の教育的連携に関すること。
- (5) その他センターの目的達成に必要な業務に関すること。

授業評価アンケートの実施、公開授業週間の実施、FD 研修会等の企画も継続的に行っている。

以下に、令和 5 年度に本センターで取り組んだ事項を説明し、今後の課題なども示す。

2. 令和 5 年度の活動

2-1. 教育改善、FD 及び学習支援に関すること。

(1) FD 講演会及び研修会について

令和 5 年度に本校で行った主な FD 活動（講演会及び研修会の開催、学外 FD 活動への参加）は次のとおりである。

- ・ 9 月 13 日（水）に、FD ワークショップ（教育と研究のバランスの話）を実施した。
- ・ 10 月 25 日（水） 11 月 22 日（水）に、FD 講演会として教務システム運用説明会を実施した。
- ・ 3 月 7 日（木）に、株式会社リアセックの担当者から「PROG テストの解説」を実施した。
- ・ 3 月 14 日（木）に、FD 研修会「WebClass 講習会」を実施した。
- ・ 3 月 15 日（水）に、授業方法に関する FD ワークショップを実施した。
- ・ 6 月 7 日（水）、7 月 19 日（水）、11 月 29 日（木）に、新任・昇任教員研修会を実施した。9 月 25 日（月）は TP チャート作成を行った。

これら以外の教員 FD に関する研修会、講習会などに参加する教員への支援も継続的に行っている。

(2) 公開授業週間

令和 5 年度は前期が 5 月 15 日（月）～19 日（金）、後期が 12 月 15 日（金）～21

日（木）の期間で公開授業週間を実施した。前期に参加した教員は51名、参加授業数は65件、後期に参加した教員は34名、参加授業数は39件、前期または後期の少なくとも1回は公開授業に参加した教員は56名（78.9%）であった。

（3）学習支援について

本センターはこれまでも学習支援に関して教員への支援を行ってきたが、昨年度設置された「学習支援室」との関係により、学習支援する教員への支援についてワークショップの実施などを含めて検討中である。

2-2. 教育課程の調査・検討に関すること。

（1）学際カリキュラムの実施

学際カリキュラムへ数理データサイエンスの導入を検討し、令和6年度入学生から、平成30年度から実施している学際カリキュラムを学際カリキュラム（エンジニアリング・データサイエンスプログラム）に改めた。このプログラムは、学際領域の共通性を持ちながら、数理・データサイエンスの考え方及び実務を学生に身に付けさせ、同時に、様々な分野で数理・データサイエンスが応用できることを学ぶ機会を提供することを目的とした。

（2）工学倫理および数理データサイエンス・AI教育プログラムワーキンググループ

「工学倫理」に関するワーキンググループにおいて、実施した授業内容、シラバス等について情報共有および検討を行った。新しいMCCへの対応を含めて、情報倫理の導入についても検討している。数理データサイエンス・AIに関するワーキンググループにおいて、エンジニアリング・データサイエンスプログラムでの具体的な実施内容について検討している。

（3）PROGテストについて

今年度も担任の協力を得て、3年生、4年生を対象としたPROGテストを12月4日（月）、5日（火）に実施した。また、2月1日（木）、20日（火）にそれぞれ4年生、3年生を対象としたPROGテストの解説会とワークを、3月7日（木）には、教員を対象とした解説会を行った。

PROGテストの実施は4年目となり、教員向け解説会でも、これまでの結果との比較があり、本校学生の特徴が示された。PROGテストの結果を今後の進路指導に活かしていきたい。

（4）授業アンケート

今年度の授業アンケートは、昨年度後期から実施したMicrosoft Formsを利用し、試験前の14～15週目に半期科目・通年科目に関わらずすべての開講科目について実施した。前

期は一部のクラスで回答数が少なかったが、後期は十分なアナウンスにより高い回答率を得ることができた。また、後期の授業アンケートについては、集計方法を各科目の結果を表とグラフで閲覧できるように改善した。今後は、アンケート結果をどのようにして授業改善につなげていくのか方法について継続的に検討する。

（５）卒業生・修了生アンケート

Microsoft Forms を用いた卒業生・修了生アンケートにより、回収（回答）率が向上した。今後は、アンケート結果をどのようにして教育改善につなげていくのか方法について継続的に検討する。

２－３．メディア教育に関すること

（１）ＣＢＴの実施

今年度のＣＢＴ(Computer Based Testing)は、１年全クラスが数学と化学、２年全クラスが数学、３年全クラスが数学と物理を受験した。さらに専門科目として、３年電気電子工学科が計測を、４年機械工学科が製図、機械設計、力学、熱流体、材料、４年電子情報工学科がソフトウェア、計算機工学、４年物質工学科が有機化学、４年環境都市工学科が建設を受験した。今年度も休みを含む１２月１８日（月）～１月１２日（金）の期間で、各自が受験する方式で実施した。

２－４．教員間の教育的連携に関すること

（１）教員間ネットワーク会議

今年度は、教員間ネットワーク会議の見直しを行い、学際カリキュラムの担当者の打合せや、工学倫理のワーキンググループの活動をネットワーク会議と位置付けることにより、年一回の開催から複数回の開催へと内容を充実させつつ、関連する一般科目及び専門科目、あるいは学科をまたぐ学習・教育目標に関連する科目を担当する教員間の連携を機能的に行うための会議として実施した。

３．今後の改善課題など

３－１．教育改善、FD 及び学習支援に関すること

公開授業週間への取り組みを検討する必要がある。教務主事団が作成した「授業点検シート」なども上手く使いながら、授業改善の仕組みを考える。

FD活動については、令和３年度実施した「新任教員勉強会」は、「新任・昇任教員研修会」として継続する。

学習支援については、継続してセンターとしての関わり方を検討する。

3－2．教育課程の調査・検討に関すること

工学倫理が令和 4 年度から開講されたが、WGは今後も担当学会議として継続的に実施する。数理・データサイエンス・A I に関するWGは次年度も、本校の教育プログラムの充実に向けて検討を継続する。

PROGテストも継続的に実施することを前提として、学生の自己発見・自己啓発および進路指導につなげていくために学内での運用方法について検討したい。

3－3．メディア教育に関すること

C B Tの実施については、令和 5 年度から年間の放課後利用が可能となっており、そういった活用状況などを共有し、C B Tの有効的な活用方法について検討を進める。B Y O Dについては、大きな問題もなく運用できている。今後は、取り組み事例を集め、各学科での取り組みに活かしていきたい。

3－4．教員間の教育的連携に関すること

教員間ネットワーク会議の在り方も含めて本センターで検討し、継続的に実施している学内WGを学校としての教育改善に繋げる。

目 次

○ F D活動	
・創造教育開発センター関連実施行事	7
・福井高専のF D等取り組み概要（本校 HP）	8
○ 公開授業	
・公開授業週間およびF Dレポートのまとめ	11
○ F D研修会（センター主催）	19
○ 教員間ネットワーク会議	43
○ 各種アンケート	45

FD 活動

創造教育開発センター関連実施行事【令和5年度】

月	行事内容	備考	月	行事内容	備考
4月	令和5年度行事計画等作成		10月	第6回センター会議(10/3(火))	
	第1回運営委員会・センター会議(4/18(火))			FD研修会(第1回教務システム運用説明会)(10/25(水))	
	第1回工学倫理WG(4/3(月))				
5月	第2回センター会議(5/24(火))		11月	第7回センター会議(11/7(火))	
	前期公開授業週間(5/15(月)～5/19(金))			FD研修会(第2回教務システム運用説明会)(11/22(水))	
				新任・昇任教員研修会(11/29(金))	
6月	第3回センター会議(6/20(火))		12月	第8回センター会議(12/5(火))	
	新任・昇任教員研修会(6/7(水))			後期公開授業週間(12/15(金)～12/21(木))	
				PROGテスト(3年:12/4(月)、4年:12/5(火))	
7月			1月	GBT(1年～4年:12/18(月)～1/12(金))	
	第4回センター会議(7/11(火))			第9回センター会議(1/9(火))	
	新任・昇任教員研修会(7/19(金))			学生による授業評価アンケート(1/25(木)～2/9(金))	
8月	学生による授業評価アンケート(7/19(水)～7/28(金))		2月	FD研修会(全高専教職員FD著作権セミナー)(1/11(木)～1月26日(金))	
	第5回センター会議(8/8(火))			第10回センター会議(2/6(火))	
	令和4年度創造教育開発センター年次報告書発行			PROGテスト学生向け解説会(3年:2/20(火)、4年:2/1(木))	
9月	卒業生・修了生及び人事担当者対象教育達成度に関するアンケート(8/4(金)～8/31(木))		3月	教員間ネットワーク会議開催(7会議)	
	FDワークショップ(教育と研究のバランスの話)(9/13(水))			新任・昇任教員研修会(2/16(木))	
	FD研修会(TPチャート作成)(9/25(水):新任・昇任教員研修会を兼ねる)			第12回センター会議(3/14(木))	
9月	第2回工学倫理WG(9/28(木))			PROGテスト教員向け解説会(3/7(木))	
				FD研修会(Webclass利用説明会)(3/14(木))	
				FD研修会(授業方法におけるワークショップ)(3/15(水))	
				第3回工学倫理WG(3/21(木))	

FD 研修会（教育と研究のバランスの話）を開催しました。

令和5年9月13日（水）にFD 研修会（教育と研究のバランスの話）を開催しました。授業に加えて、学生指導や課外活動の指導等に忙殺されて忙しい毎日を送る中で、今までやってきた研究を継続的に行うための工夫について話し合うためにグループ討議を行いました。最後にグループ代表者により発表を行い、教育と研究のバランスについて知恵を出し合う良い機会となりました。



F D 研修会（授業方法におけるワークショップ）を開催しました。

令和6年3月15日（金）にF D 研修会（授業方法におけるワークショップ）を開催しました。授業の方法や小テストのやり方、試験の実施方法及び学生へのフォローの仕方など様々な面から議論を行い、新学期からの指導に役立てることを目標に、まず、3名の先生が実際に行っている授業方法について紹介しました。その後、参加者を複数のグループに分けてワークショップを行い、授業方法について議論とその内容の発表をすることで、より良い授業方法の在り方について全体で共有する良い機会となりました。



公 開 授 業

令和5年度「公開授業週間およびFDレポート」のまとめ

創造教育開発センター

1 公開授業の目的と公開授業週間

目的：授業参観時間の拡大を図り、他の教員の授業方法等を参考とする機会を増やすことで、各教員の授業改善の参考とする。

前期：令和5年 5月15日（月） ～ 5月19日（金）

後期：令和5年12月15日（金） ～ 12月21日（木）

2 参観教員数

表1 令和5年度前期公開授業週間参観状況

学科等名	現員数	参観者数	レポート提出数
機械工学科	8	4	4
電気電子工学科	10	8	10
電子情報工学科	8	8	9
物質工学科	11	6	11
環境都市工学科	9	8	9
一般科目教室（自然科学系）	13	8	10
一般科目教室（人文社会科学系）	11	9	12
計	70	51	65
参観率（%）	51/70	72.9%	

表2 令和5年度後期公開授業週間参観状況

学科等名	現員数	参観者数	レポート提出数
機械工学科	8	1	1
電気電子工学科	10	4	4
電子情報工学科	8	4	4
物質工学科	11	7	7
環境都市工学科	9	6	8
一般科目教室（自然科学系）	13	6	7
一般科目教室（人文社会科学系）	11	6	8
計	70	34	39
参観率（%）	34/70	48.6%	

現員数は短時間勤務教員を除く常勤教員数を掲載。

○ 公開授業週間の参観者率の推移（過去4年間）については、令和2年度後期は新型コロナウイルス感染症の影響により、参加者率が大幅に減少し約30%であった（前期は公開授業週間を中止）。令和3年度は前後期通して1回以上参観した教員は59.5%で2年前とほぼ同程度の参観者率となり、令和4年度も引き続き新型コロナウイルス感染症の影響からか前後期通して1回以上参観

した教員は 52.8%にとどまった。令和 5 年度は前後期通して 1 回以上参観した教員は 78.9%と、平成 30 年度（75%）と比較して同程度の参加者率となった。理由としては、新型コロナウイルス感染症の影響が限定的となったことが挙げられる。

3 参観したクラス

表 3 どの学科・教室の公開授業に参加したか？（前期）

		参観した授業（学科・教室・専攻科）									合計
		機械	電気電子	電子情報	物質	環境都市	自然	人文	学際	専攻科	
参加教員の所属	機械	4									4
	電気電子	2	8								10
	電子情報			8					1		9
	物質				8		2	1			11
	環境都市					8				1	9
	自然		1		1		5	3			10
	人文						1	11			12
合計		6	9	8	9	9	8	15	1	0	65

表 4 どの学科・教室の公開授業に参加したか？（後期）

		参観した授業（学科・教室・専攻科）									合計
		機械	電気電子	電子情報	物質	環境都市	自然	人文	学際	専攻科	
参加教員の所属	機械				1						1
	電気電子		3	1							4
	電子情報			3			1				4
	物質				5		1	1			7
	環境都市					5	2	1			8
	自然				1		4	2			7
	人文			1			1	6			8
合計		0	3	5	7	5	9	10	0	0	39

○ 概ね、所属する学科・教室の授業を参観する傾向にあるが、参観された授業のうち 25%が他学科（学際含む）の授業であった。これは令和 4 年度（32.9%）と比べると減少したが、令和 3 年度（12.5%）と比べると上昇しており、センターとしても、今後も自身の専門領域に拘らずに他学科・教科の授業も積極的に参観して頂くように働きかけたい。

表5 どの学年の公開授業に参加したか？（前期）

		参観した学年						合計
		1年	2年	3年	4年	5年	専攻科	
参加教員の所属	機械		1		2	1		4
	電気電子	1	1	5	2	1		10
	電子情報		1	1	3	4		9
	物質	2	2	6	1			11
	環境都市	1	1	2	2	2	1	9
	自然	4	4	2				10
	人文	3	4	4		1		12
合計		11	14	20	10	9	1	65

表6 どの学年の公開授業に参加したか？（後期）

		参観した学年						合計
		1年	2年	3年	4年	5年	専攻科	
参加教員の所属	機械		1					1
	電気電子	1		1		2		4
	電子情報			1	2	1		4
	物質		2	4		1		7
	環境都市	5			3			8
	自然	3	4					7
	人文	1	5	1		1		8
合計		10	12	7	5	5	0	39

○ 参観した学年について、令和5年度は前後期を通して件数の多い順に3年生 27 件、2年生 26 件、1年 21 件、4年 15 件、5年 14 件、専攻科 1 件となった。低学年の参観数が多い傾向にある。

令和5年度（前期）公開授業週間「FDレポート」

※ 授業担当者の 学科(教室)	■ 参 考 に な っ た 点								■その他
	板書やプロジェクタ・OHP の使い方	教員の説明 (声の大きさ・スピード等)	授業の導入 (出席の取り方、前回の復 習等)	授業の運営方法	教材や配布物 (小テスト・プリント)	課題や演習の時間配分	理解度の確認	その他	
一般(人文)	PPTスライドと板書の組み 合わせが大変わかりやす かった。	聞き取りやすい発声だっ た。			穴埋め方式のプリントを配 布することで学生が聞く姿 勢を保っていた。				
一般(人文)			前回の授業で行った小テス トについてのフィードバック から授業に入っていた。	学生を当てることで緊張感もあつ た。	板書を書き写すプリントが あった。どのようにして書き 込むのかがわかりやすく参 考になるものであった。				
一般(人文)			・単語確認テストから入り、 その中で学生とコミュニ ケーションをとっていた。	・「英語を使う」ことを中心に授業 が構成されていた。 ・小テストの採点は学生同士で。 ・前回のテストの返却は、採点と 作文中に、学生も手伝っていた。	・小テストの裏面を使って、 作文を書かされていた。	・後半は、英語で伝言ゲー ム		・声掛けは頻繁に行ってい た。	
一般(人文)	板書の字がとにかくきれい	声も大きく、ジェスチャーも 交えていて良い		学生に相談させ、結果を発表さ せていた					
一般(人文)	・板書の字が綺麗。 ・板書の字の位置が整って いる。	・聞き取りやすい優しい声。 ・相手に聞かせるような言 い方。 ・ポイントも分かりやすい。 ・物語の全体像がイメージ しやすいように物語の構成 を最初に説明をしていた。	・前回話したところを綺麗に まとめて説明されており、 学生も入りやすかったよう に思う。	・周りの人々と話す機会を多く 設けていた。 ・また、学生も周りと積極的に話 しており、そういった状況にしてい る学生の空気感が良かった。	・無くても問題ないほど、学 生同士が積極的に学ぶ機 会を設けていた。		・先生から学生に質問をする ことを多くし、その質問も 学生が考えて答えられるレ ベルに設定されていた。		
一般(人文)	・後ろからも見やすく、丁寧 に板書されていた。	・スピード、大きさに適切 で聞きやすかった。 ・時々関西弁が入り、メリ ハリがあった。 ・言葉の説明も丁寧にされ ていた。類義語を紹介する など、語彙力を伸ばす取り 組みもなされていた。		・一方的な授業ではなく、学生を 指名し、答えさせるなど、双方向 の授業を展開していた。			・個人指名をし、分からない 場合はヒントを出すなど して、理解度の確認をして いた。		・全体的に集中して授業に取り組んで いた。教員から学びを得たいという学生 の意欲が伝わってくる授業だった。
一般(人文)	・板書の字がとても美しく、 見やすかった。	・声の大きさは適切で、語り 口も穏やかであった。 ・授業中は話すスピード を進めるなど、メリハリが感 じられた。		・教員が講義をするだけでなく、 ポイントで問を立て、学生に語合 わせていた。 ・個人指名で順番に当てていくの だが、ところどころ学生に指名す る学生を選ばせるなど、指名が 単調にならないよう工夫してい た。			・個人指名をし、分からない 場合はヒントを出すなど して、理解度の確認をして いた。		・学生は概ね話し合いに積極的に参加 していた。授業と、教材に興味を持って 授業に臨んでいる様子だった。
一般(人文)	・板書で書くことが厳選され ていて、字が大きくゆつたり 黒板が使われていて見や すかった。	・穏やかな口調だが、声の 大きさは後ろでも聞き取り やすかった。	・前回の振り返りを学生同 士で確認させた後、ポイン トを教員で説明していたわ かりやすかった。	・説明一問一問一話し合い→ 指名による解答→解説→板書 のような流れが確立されていて、双 方向の授業が展開されていた。			・学生同士で話し合わせて いる間に聞かせる余話 を聞いたり、指名して答えさ せたりすることで、理解度 を確認していた。	・指名するときの当て方に 変化を付けたり、最初に当 てられた学生に次に当てて いく方向を聞いたりしてい て、授業がマンネリ化しな いような工夫があって良い と思った。	・授業の運営方法が確立しているので、 学生が今やるべきことは何かというの がわかりやすく、受けやすい授業だと思 った。
一般(人文)	・板書がとても丁寧で見や すかった。	・ゆっくり丁寧に説明がされ ていた。	・はじめに前回のフィード バックと先生の感想を伝え ていて、学生との交流が行 われていた。	・スマホを使って学生自身に言葉 の意味を調べさせ、学生が主 体的に授業に取り組んでいた。 ・学生に挙手させ、自主的に 発表できる環境を作っていた。	・プリントが教科書の要点 をまとめていてわかりやす く、授業のテンポが非常に 良かった。		・机間巡視を行い、作業の 確認を行っていた。 ・学生に挙手させ発表を 確認させていた。		
一般(人文)	・板書のテンポがよく、見や すく書かれていた。	・丁寧な説明で、内容がわ かりやすい。	・先生の感想を含めて前回 の授業の振り返りがされて いて、学生と感想の共有が されていた。	・学生の声を拾いながら授業が 展開されていた。 ・授業の目標が明示され、学生が 何を意識すべきかがわかりやす かった。	・学生の感想をまとめたプ リントが用意され、クラス全 体で共有されていた。		・学生の板書の様子を確 認しながら授業を進行してい た。 ・指名して発表させること で、理解度を確認してい た。		
一般(人文)	プロジェクトを単語テストの 正解提示に上手く利用して いた。			最小の説明で、しっかりと学生が 演習できるような工夫が見られ た。	単語確認試験の作問に工 夫が見られた。	単語確認試験の準備時間5 分、解答時間5分は適切 であった。	文法確認(英作文)の演習 を行わせている時に、しっ かりと個別対応ができてい た。		学生に提示する例文は、「典型例」を使 うのが良いように思われる。
一般(人文)	・最初の板書内容で、その 日の講義のテーマやキー ワード(新出学習事項等)を まずまとめたり、学生に はより理解しやすい。学 生の反応がさらに出し やすい工夫があると一層良い なよう。	・学生を頻繁に指名し、英 語発話の機会を多く与え ている。	・授業の冒頭に今回の講義 の学習内容について要点 を説明していた(前述)。	・タスク(課題プリント)を通して、 アクティブ・ラーニング(学生主体 の学習)がなされていた。	・世界的で有名な新刊テキ スト及びOEIC®対策テキ ストを使用している。	・学生の反応を丁寧にみて 理解状況を確認している。 理解度が低い場合は質問 の言い直しも行っている。	・平易な英語を使いフレンド リーな姿勢で学生に接し、 理解度を確認していた。	・総合的に問題ない講義で あった。	・特記事項はありません。
一般(人文)	・授業の要点が簡潔にまと められていた。少しフォント が小さく後列からは見えな かった。	・学生の質問ひとつひとつ に的確に対応していた。		・知識を与えるだけではなく、実 際に思考実験を行って考えさ せる機会を中心に構成されてい るのが素晴らしいと感じた。		・授業の性質上避けられな いところでもあるが、講義自 体が行きつ戻りつしている ところが学生が若干迷子に なるかもしれないと感じた。	・丁寧に理解度を確認しな がら授業を進めているのが 印象的だった。さらに、授業 の最後に課題を与えて文 章としてもアウトプットする 機会を設けていた。	・上手にもっていけば学生 は案外哲学に興味がある ことが意外で、非常に興味 深かった。	
一般(人文)	文法事項の解説をスライド で丁寧に作成していた。		前回までの復習として小テス トを実施していた。小テスト 前に準備時間を与えるなど の配慮も行っていた。	授業全体の説明と演習のバラ ンスをきちんととっており、個々 の学生の疑問に丁寧に対応してい た。	教科書の内容に関連した 小テスト・ワークシートを自 作し、活用していた。		この授業も含め、多くの授 業で学生の英作文を回収し、 個別に丁寧にフィード バックを与えている点は見 習うべき点であると感じた。		授業後に気になる学生についての状況 をシェアしたり、対応方法について共同 で考える場となった。
一般(人文)	・A4用紙に適宜説明を書い て黒板代わりにしていた。	・声が大きく聞き取りやす い。	・前回の課題の返却とアド バイスの時間としていた。	・教科書の内容を進めていた。練 習問題を解く時間、答え合わせ の時間を設けていた。作文やス ピーチの課題もあるようだった。	・作文作成のための補助プ リントを配っていた。	・15分くらい、少人数とい うこともあり、個々の進捗を 見ながら時間を決めていま るようだった。	・練習問題解答後に、丁寧 に答え合わせをしていた。		
一般(自然)	基本的に iPadの画面をプ ロジェクタで映写していた。 さらに、映写するだけでなく、 画面にその場で書き込 む等、工夫されていた。画 面自体も、わかりやすくな るように、レイアウトや色使 いに工夫がなされていた。	声の大きさは、ちょうどよ い。スピードについては、各 学生にあわせているのは、この 授業形式では不可能な可 能なので、ここでは評価しな い。	テストの返却など、最初は 前回の復習から入り、前回 からの内容とうまくつなが るよう、授業の導入を行っ ていた。	スクリーンをみせ、配布したプ リントに記入させるなど、学生が進 行にあわせてきちんと学習してい た。	プリントのレイアウトなどが 工夫されていた。	時間配分については、この ような授業形式では各学生 に合わせることは不可能な ので、ここでは評価しない。	演習をおりませ、直前に学 習したことをその場で復習 させる形式で行われてお り、大変参考になった。	特になし	口頭での説明が多いので、視覚的な効果 もねらったほうがよいかもしれません 。例えば、行うべき操作(代入、移項 等の式変形)を、視覚的に実感させるよ うな工夫をすると思います(教科 の特性上、技能の習得も求められるの で)。
一般(自然)	板書は後ろからでも見やす かった	後ろでも十分に聞き取れた		エクセルを用いた授業をおこな っていた。また、学生も各自パソ コンを持ち込んで作業をおこな っていた。	エクセルのファイルを配布 していた。		各自、ネットでデータを探 し、そのデータをもとにグラ フを作成して理解の確認を させていた。		
一般(自然)	板書の文字が大きく見やす かった。	学生が理解できる言葉でわ かりやすく説明していた。	5分程度前回の復習をして いた。		板書を書き込むためのプ リントを配布していた。				
一般(自然)	図などを取り入れて、わか りやすい工夫をしていた	声も大きく、良いテンポだと 感じた							
一般(自然)	・長いリーチを生かしたダイ ナミックな板書。字は大きく 読みやすい。	・ゆっくり、一つ一つの単語 を区切って話しており聞き やすい。		・単振動の実例をばねを用いて 実演していた。	・図を多用する場面で作図 用のプリントを併用してい た。			・演示実験は時間、場所、 体力(器具が大きく重い)が 必要のため避けられがちで あるが、うまく既存の道具 を用いて説明していた。	

授業担当者の 学科(教室)	板書やプロジェクタ・OHP の使い方	教員の説明 (声の大きさ・スピード等)	授業の導入 (出席の取り方、前回の復 習等)	授業の運営方法	教材や配布物 (小テスト・プリント)	課題や演習の時間配分	理解度の確認	その他	■その他
一般(自然)			・冒頭に丁寧に前回の授業 内容の復習をしていた。			・学生が用意する時間やプ リントに取り組む時間を十 分にとっていた。			
一般(自然)	・チョークの色は白赤黄の3 色のみ。黒板を2〜3分割 して使用。黒板を自分で消 すときも丁寧に横消しして おり、次の板書が見やす い。	・声は普通の大きさと、自 然と教室内が静かになる感 じ。話し方がゆっくりで聴き やすい。	・前回の授業の復習を5分 程度最初に行っていた。	・教科書の内容をそのまま進め ていた。例題の設定を少し変えて いた。板書のペースがゆっくりめな ので、学生が一時ウトウトでも 追いつけるようだった。	・板書を写す用のA3プリン トを配っていた。	・例題の解説に20分強。	・例題や類題を解くことで理 解度を深めさせていたよう だ。		
一般(自然)	・板書の字がきれいで見や すい。	・声を張っていた。	前回の復習があった	独自のプリントを作成されて いた。	教科書とプリント		学生に黒板に書かせてい た	「希ガス」が「貴ガス」になっ ていて、勉強になりました。	
機械		広い工場内でも聞こえるよ うに配慮して話を始めている	一列に並ばせ、個人個人 の体調を確認している	考えて行動するように促している			日誌を書くことで確認してい る		
機械			学生のみなりチェックを兼ね て一人ずつ名前を呼ん で点呼をしていた。 ヒヤリハット事例の紹介を し、学生の注意を促してい た	6〜7名の小グループに分かれ ての作業実習			各担当者が実演を交えて、 学生の実技を細かくチェッ クしていた		
機械	板書とプロジェクタを併用	聞き取りやすい速度、大き さ	スライドに目次を出して、こ こまでの流れを15分程度か けて振り返っていた	スライドと板書を併用しての説明 がスムーズで良い	資料をweb classにアップし て、要点のみプリント配布		質問して確認していた		
機械			発表方法の確認、時間など を伝えてスムーズに進行で きるように冒頭に話してい た。	発表会であったため、発表に対 する感想や質問を学生にも行う ように指導していた。	各発表に対して気になる点 や疑問などをポストイットを 配布して書き出してもらい、 最終的に各発表者に対して それらを提示してあげる ようにしていた。				
機械	大変見やすく書かれてい た。	ゆっくりと、丁寧に説明して いた。	クラス内をつぶさに観察し、 普段と違う様子を見せる学 生がいれば気づいていた。	演習中心で、学生は地力がつくと 考えられる。					
機械	黒板へ向かって左一右へ 板面を3列程度に分けて使 用 プロジェクタは不使用	明瞭 スピードも良好	課題返却を兼ねて確認 (名簿順に返却できるように に予め準備されており、時 間短縮)	解説の際、教員からの一方的な 説明にならないように、適切な時 間間隔で学生を指名し問いかけ を繰り返している。 その結果、クラス全体に適切な緊張 感が生まれ、場の空気がうまく 作られているように感じた。集中 力が欠けたり、居眠りしている 学生はいなかったように思われ る。	事前に提出されていた課題 プリントの返却。	模範解答を全ていっぺんに 説明するのではなく、説明 中に適切な間隔で計算演 習をさせていた。 このことにより、一方的な説 明にならず、集中力の持続 効果もあると思われた。	予め、提出された課題にす べて目を通し、理解度を確 認していると思われました。 他人のレポートを写す行為 について、言葉掛けや質問 により抑止を図っています (同様のおかしな解き方を している学生が複数おり、 それを事前にチェックされ ている)	量記号の書き分け(こ ではWとw)について、その重 要性を説いていた。専門分 野を学ぶにあたって重要な 要素の一つである。 自分が判別できないレベル では元も子もないが、他人 が読んでも判別できるように 配慮することは重要であ る。	より要領のよい別解を説明しつつも、学 生の解法も間違いではない。とし 「模範解答通りに解く必要は、必ずしも ない」 「読み手に対する配慮の心掛け」 と述べられていたことが印象的であっ た。レポートを写す行為に対する声掛け 等も含めると、「自分で考え、よりよくなるよう創意工夫 してやりなさい」 という主張で、一貫していると感じた。
電気電子	必要な内容をスクリーンに 示し、資料配布していた	必要な内容を大きな声で説明 していた		演習で自分で問題を解決できな い学生が増えているように感じ た。	講義資料を配布している		順次巡回して、学生の状況 を確認していた		
電気電子	PPTで実験の流れを分かり やすく明示しており、また学 生がいつでもその資料を確認 できるように事前に共有 しており、分かりやすかつ た。	学生が課題に取り組む時 間を充分取っており、実験 と学びを両立できそうであ った。	毎回レポート提出があるの か、前回のレポートに關する 講評があり、前回の授業 内容を受けて学生が学ん だ内容の理解に対する フィードバックがなされてい てよかった。	目の前のマシンで、習った内容を すぐに実践できる形式が素晴らしい かった。	センサや、駆動系などがつ いているサッカーロボッ トパワーポイントによる講 義、プログラムの資料など も付随していた	とても素晴らしいか つと思います。	技術職員の方がおり、適宜 学生の進捗などを平行して 確認していた	後期の実験の際に、同様 にプログラムを使ったマシ ンを作るアクティブラー ニングを行っているが、その前 段階としてマシンを動かす プログラムを学ぶ授業の内 容などを確認できたのが良 かった。	同じ学科でも、他の授業で学んでいる 内容の把握は充分になされて居なかつ たりするので、情報共有は重要だと感じ た。とはいえ一度の授業で身につけな いことも多いので、異なる教員が同じ内 容を違う形で教えることも重要に思う。
電気電子	・スライドと黒板を併用して の授業で分かりやすかつ た。スライドを併用すること で学生は板書に気を取られ ずに内容を聞くことができ て良いと思います。	・声の大きさとスピードは適 切だと思います。	・スライドで前回の復習から 入り、本題に移る授業導入 なので分かりやすかつた。	・内容の説明の後に演習をして いたので、理解しやすいと思いま した。					
電気電子	板書が丁寧に分かり易い。	声はハリがあり、見聞いた いです				例題の復習も演習に取り入 れていた。			
電気電子	板書とプロジェクタを使い分 けており、学生のノート筆 記に配慮していた。	スピードはゆっくりで学生に 配慮していた。			丁寧にプリントを作成し演 習の時間をとっていた			採用初年度ということもあ り、緊張している雰囲気 が感じられたが、	
電気電子	主にプロジェクタを用いて いた。	丁寧な説明であった。			今回の授業では特にプリン トは使用しなかった。			実際に即した解説が出色で ある。	
電気電子	板書の文字が大きく見やす い。色分け、黒板を4分割 して丁寧に書いている。	ゆっくり、ていねいにかみし めるように話されていて聞 きとりやすい。							
電気電子	実験室の後ろまで見える大 きさの字で見やすい。	聞き取りやすい大きさとス ピードであった。	1人1人丁寧に出席確認を していた。	説明と実習のバランスが良い。					
電気電子	・教室の後ろまで声がしつ かり聞こえた。		・前回授業の課題を授業開始時 に学生に説明させることで、復習 を促していた。					・どの学生が問題を解説し たかを分かるように記録し ていた。	
電子情報	板書で説明を書く範囲をう まく分けて説明が行われて いて良い。	最後尾でも声ははっきり聞 こえる。	前回のレポート返却から始 まり、学生の理解把握がよ かった。	重要な式の説明の際に、最終的 な式の示す意味を事前に強調し てから説明があつてよい。			前回の授業での質問へ の回答などもあつて良かつ た。		
電子情報	黒板灯は消した方が見やす い。前席も消した方が見 やすいが、教科書、ノート を隠るならついでにでも OKだと思います。 説明時に消してくれました。 見やすくなりました。OK。 逆に、マメに点灯消灯した ほうがいいのかもと反省し ました。	声はもう少し大きいほうが 聞きやすい。マスクをして いるので、出欠が終わったら温ま ったのか、大きくなりました。 大丈夫です。聞こえます。 スピードも問題ないで す。	特に問題なし	パワーポイントを使った資料。 動きがあるのでわかりやすい。 が、文字だけのページは、もう少し 字が大きくないと見やすいかも。事 前に配布してあるので、PCで見て いる人はいないが、そうでない人 には、どこをやっているのか、ポイ ントなどで示した方がいいと思 いました。	事前に講義のパワーポ ント資料が配布されている。	毎回、レポート提出してい るようです。 時間中も演習を交えて行 なっている。	個別に確認しているよう です。	配布しているパワーポイントと、表示 している資料が違う学生がいるので、ど こか確認できるようにするといと思いま す。 学生のファイルを見たら、内容は同じで すね。見かけが違うので戸惑って 扱っているようでした。 この辺は、自分の資料配布でもどこまで 同じにしようか迷うところはあります。	
電子情報	実験の手順書を改めて表示	ちょうどよい		・プログラミング言語は指定しな い点は、教員側には負担になる が学生側は自分のPCの環境に 合わせて選択肢が広がるので好 ましい。		・実験として学生の作業時間 が十分確保されている	・教員の手間がかかるが、トラ ブルをもつ学生に個別に対 応されていた。 ・実験の結果(どのような けがが得られたら妥当なの か)のガイドの提示があれば、 学生が自分で結果を詳 述できるのではないかと感 じた。		
電子情報	C言語の環境設定方法に ついて、学生がつまずきや すい点を表示	ちょうどよい		・プログラミング言語は指定せ ず、個人毎に課題となる画像処 理プログラムを製作し、その中 でつまづいたところを教員が指導 する。			個別に確認	・実験および授業で用いる プログラミング言語に關し て、環境設定のしやすさ について考えることができた	得意な言語を用いる学生や、あえて新 しい環境の言語でトライする学生が いて、学生が主体的に言語を選ぶこと ができるとうれしいと思う。

授業担当者の 学科(教室)	板書やプロジェクタ・OHP の使い方	教員の説明 (声の大きさ・スピード等)	授業の導入 (出席の取り方、前回の復 習等)	授業の運営方法	教材や配布物 (小テスト・プリント)	課題や演習の時間配分	理解度の確認	その他	■その他
電子情報				実験テキストに沿って演習が行われ、他の科目で学んだプログラミング言語での具体例も取り入れ、理解度を深めていた。		1年次に、フローチャートの基礎的な部分を学んでいるため、順調に進んでいた。	学生は、説明を聞き演習を行い、分からないことや、疑問に思うことは、個別に教員に聞いていた。 教員は、丁寧に説明されていた。		アルゴリズムとフローチャート3週にわたる演習の2週目
電子情報				・グループごとに分かれて、アイデアをまとめていた。 ・必要に応じて担当教員がアドバイスしていた				・アイデア出しに必要な基本的な知識をしっかりと事前に学生に周知していた	・学生同士で積極的に議論している様子が見られた
電子情報						3週のテーマで、1、2週目で実験終了し、3週目は解析・レポート作成と時間的には十分余裕がある。学生も落ち着いてレポート作成に取り組みていた。			
電子情報	板書とプロジェクタをうまく使い分けていた。(説明資料はスライド表示、大事な部分は板書)	大きく聞きとりやすい説明であった。	出欠を取る際に複数回確認をしていた。	なぜその内容を学ぶ必要があるのか、どういった場面で必要になるのかを示してからの説明となっており、学生の関心が高まる工夫がされていた。	WEB上に説明資料があり、予習復習ができるようになっていた。		30分程度の説明のあと、演習を実施して理解度を確認していた。	あるプログラムに対して、複数の書き方を紹介していた。(最初は理解しやすい書き方を、次にシンプルなものを書き方を紹介していた。)また、よくある間違え例も挙げていた。	
電子情報								プロジェクト演習が開始した時担当していたので、どのように変化したのか気になった。発表会の審査も時間内に終わるように色々と工夫はされているようでした。	中間発表会でした。
物質	・要点に絞って板書されており分かりやすかった	・声が後ろまで通っていた。 ・簡潔な説明で分かりやすかった。	・前回および、去年の話も含めて話されていた。	・用意した資料とそこに加えて説明をより丁寧にされていた。 ・最後に演習もあり、より理解が深まった。	・板書が書ききれなくても資料を見れば理解できるようになっていた。	・集中力が切れて疲れ切る前に演習に入ったので良かったように思う。	・授業では学生の様子を確認しながら説明し、演習も取り入れていた。		
物質	板書が丁寧である(文字が大きい)	ゆっくりとした口調で聴き取りやすい	前年度の履修内容を確認しながらおこなっている	クラスの中心程度にレベルを合わせている			教科書のポイントになるところを指摘しながら理解を助けている		
物質	テキストに従って、学生が自主的に実験を行っていた。			学生を8つ程度のグループに分け、グループごとに異なる分析実験を学生が主体となって行っていた。			単元ごとにレポートを渡し、レポートの記述内容にて判断する。		
物質	スライドを暗いバックにしているので、部屋を暗くしていると見やすい	ゆっくりとわかりやすい	前回の復唱している						教える範囲を少なくすれば、わかりやすい授業は可能だったと思った。
物質	・適宜板書していた。			・プリント集を予め配布しており、毎回それに記入していく形で進めていた。	・プリント集(配布済み)			・大学編入試験の過去問をプリント内容に含めていた。	
物質	・プロジェクターでパワーポイント使用。スライドが切り替わるたびに切り替えてよいか学生に確認しつつ進めていた。	・ゆっくりで大きく、聞き取りやすい。	前回の授業内容の復習をササッと行っていた。	・教科書の内容をそのまま進めていた。授業の内容を最初に提示してから授業に入っていた。また、質問がないか適宜学生に聞きつつ進めていた。		・前回の授業内容に関する問題を3問、各10分で解かせて、解答解説を行っていた。	・同左。		
物質				・教科書の内容をそのまま進めていた。例題を学生に解かせるだけでなく、黒板に解答を書かせていた。		・10分ほど時間を取っていた。			
物質	昨年度も拝見したが、昨年度よりも講義スライドがブラッシュアップされていた。スライド内の色が多彩となり、興味を惹きつけられるようになっていた。	教室の後ろまでしっかり聞こえる声質と大きさだった	昨年度と比較すると、前回の復習を行うようになっていた		講義スライドは事前にTeamsにアップされているとのこと、学生も事前に予習しやすいように工夫されていた				
物質		それぞれの教員が各テーブルで指導している参考になった						学生がイキイキといてとても嬉しかった。	
環境都市	・プロジェクタと黒板を使い見やすい。	・声の大きさ、スピードとも聞き取りやすい。							
環境都市	・板書の字が大きく、丁寧に見やすい。 ・どのくらい書くかをはじめるに伝えているため、ノートをきれいにまとめることができる	・学生の計算の進捗に合わせ授業を臨機応変に進めていた ・声が大きく、聞き取りやすい			・計算用紙を準備して配っていた		・計算の進捗状況を見て回っていた		
環境都市				・自学自習を積極的に取り入れ、分からない部分を学生同士で聞きあうことで解決していた	自習用プリントを配布していた		小テストによって理解度を確認していた。		
環境都市	見やすいPPTスライドでした。	声が良く通る。		板書とPPTを併用して、互いの良い部分を効果的に使っている。	PPT資料を配布しており、丁寧。		学生の理解度を見ながら進めている。		
環境都市						演習と報告書の作成時間のバランスが良い。	学生同士が教え合うことで、理解度は高まっている。		
環境都市	大きな文字で、教室の後方からも見やすかったです。	後方からも充分に聞き取れる大きさで、ゆっくり話をされていました。	授業の導入は、Quiz(小テスト)の返却と課題提出が行われていました。	問題集から演習問題を選択し、アレンジした問題を解説されていました。釣り合い式を指名しながら答えさせるスタイルで、インタラクティブな授業を展開されていました。	Quizの模範解答を配布し、丁寧に解説されています。解答欄よりも式の展開を重視すること、≡の話、単位の話、答えの桁数……どれも大切だと感じました。	充分に時間をとって解説されていました。	指名した学生と対話しながら授業を展開されているため、理解度も確認できると感じました。	力加の問題(距離)について、後方の学生は、ノートに3mと4mを等間隔で描いていました。定規を使う意識を持たせるとより良いと感じました。	3年生の構造力学を担当しているため、参考になりました。ありがとうございました。
環境都市	プロジェクタスライドの文字がやや小さい	大きい声		前回授業で終わったところを確認してから本日の授業を開始			授業の最後に課題を与えている		
環境都市	・プロジェクタの字が大きく見やすい	・大きな声でゆっくり話していた	・前回の復習から始めておりよかったです	・実習と説明のバランスが良い。		・講義と演習の時間配分がよい			
専攻科				・初めに一人で課題に取り組み、授業の一部の時間で分からない部分を他の学生に聞き、その後再度自分で取り組む方式であった	課題プリントを配布していた		学生の取り組みを巡回しながら確認し、サポートしていた。		

令和5年度（後期）公開授業週間「FDレポート」

※ 授業担当者の 学科(教室)	■ 参 考 に な っ た 点								■その他
	板書やプロジェクタ・OHP の使い方	教員の説明 (声の大きさ・スピード等)	授業の導入 (出席の取り方、前回の復 習等)	授業の運営方法	教材や配布物 (小テスト・プリント)	課題や演習の時間配分	理解度の確認	その他	
一般(人文)	・板書の字が美しい	・学生が理解しやすいよう に間を空けて説明していた	・前回の内容も都度確認 していた	・説明と学生同士の話し合いをバ ランスよくとっていた		・学生の話合いの時間が 1～2割程度	・話し合いの結果を発表さ せることで、確認していた	・答えがあっていても、 基本的に学生をほめる感じ あり、授業の雰囲気が良い かった	
一般(人文)	・教科書やプリントをスライ ドとして映して、今やっ ている話がわかりやすい。	・声に張りがあった聞き取り やすい。	・復習として、様々な当て方 で学生に答えさせていた。	・説明だけでなく、スマホで調べ させたり考えさせたりしていて、身 近に感じられるような工夫がされ ていた。	・プリントを配布していた。 ・教科書の地図やグラフを 活用していた。	・考える時間5分程度、発表 と説明含めて5分程度	・考えていなさそうな学生を 指名して考えさせる工夫を していた。	・学生の指名の仕方が一定 ではなく、緊張感をもって取 り組んでいるようだった。 ・授業が全体的にテンポよ く進んでいた。	
一般(人文)	・スライドの要点がまとまっ ていてわかりやすい。 ・プリント主体なので板書内 容を厳選できていた。	・ゆっくりと端的に説明して いて、話の内容がよかったです。	・最初にテーマを説明し、何 を扱うのか分かってから授業 を聞いた。	・説明→課題への話し合い→共 有→解説という流れがあり、今何 の時間なのかわかりやすい。	・プリントを見れば授業の 展開がわかる内容になって いた。	・課題に取り組むための話 し合いの時間が多く確保さ れていた。	・話し合いのあと、発表と フィードバックを行って確認 していた。	・具体例の説明が身近なも ので関心を持ちやすかつ た。	
一般(人文)								課題の難易度を段階的に あげていくやり方が参考に なりました。	
一般(人文)	とてもハッキリして聞いて やすい。							学生に回答してもらい、そ れらの回答をもとに、一般 化＆ポイントの明確化がう まい具合に行われており、 その点が参考になりました。	
一般(人文)	・ほんの一部だが、解説し にくい癖字もあった。講義 のテーマやキーワードを中 心に強調していた。	・英語が理解できない学生 は、講師が時々怒っている ように誤解するかもしれない。	・問題なし	・引き続き、出来る限りのアクティ ブ・ラーニング(学生主体の協働 作業)が導入されている。	・英米を中心に世界でもで かなり名高いテキストを使用 している。	・とりわけ気になる点はな い。	・学生の答えを辛抱強く 待ったり手助けを行ない、 その理解度を確認してい る。	・レベル等、総合的に適切 な講義と判断できる。	
一般(人文)	要点および主となる発問が 簡潔に提示されていた。	自分よりもゆっくりとした説明 ・問いかけになっており、 落ち着いた授業になっていた。		学生とのやりとりの機会が中心と なり、ペアから全体への共有が無 理なくされていた。	自分の考えやスライドのポ イントをまとめるために工 夫されていた。	学生とのやり取りと倫理の 概念の説明のバランスがよ く考えられていた。		学生からの意見を上手に拾い、それを 元に授業を展開している様子がとても 参考になった。	
一般(人文)		声が大きく、聞き取りやす い		学生の考えを発表する時間があ り、とてもよかった。	課題プリント		個人で考えてきたことを共 有しあう時間の後に、教員 からの解説がありわかりや すかった。		
一般(人文)		・皆に問いかけるような、注 意をひくようなものであった		・小テストの解答を提示するだけ ではよくない、類義語・対義語なども 合わせて示していた	・単語、文法の小テストを 行っていた		・小テストにより、否が応で も英語の知識を身に着ける 必要のある授業であった		
一般(人文)	板書の文字サイズは後ろ からでも見やすい大きさ で、字も綺麗で見やすい。	学生が板書をノートに写し 終わった後に説明されてい たので、集中して聞くことが できた。	最初に目標を明示されてい て、授業で得るべきすカラ が分かった。	取り扱う作品の説明を丁寧にす ることでより理解が深まる。	配布プリントで、作品の文 章を丁寧に解説していて、 板書を写す負担を軽減して いた。		話し合う時間を設け、学生 間で理解の確認ができる。		
一般(自然)	丁寧であった。簡単に図も 描かれていた。	普通	課題の解答(学生に板書さ せ、さらに説明させていた)	説明と問題演習。ノートに図を描 くことを指示されていた。また、板 書を消して良いかどうか、学生に 確認されていた。	教科書、課題(プリント)	適当であった。		学生に問題演習をさせたあ と、学生に答えていたの が良かった。基礎解析Aと のつながりが確認でき、参 考になった。	細かい点で、大変参考になりました。
一般(自然)	板書の字が大きく、わかり やすかった。							新しい単元の導入部分で、 単元の目的を話していたの が良かった。基礎解析Aと のつながりが確認でき、参 考になった。	一般科目教室非常勤講師
一般(自然)	丁寧	ゆっくり目・わかりやすい	適切	演習問題の最中に教室を巡回し ていた点が良い	問題のプリントを配布して いた	適切	適宜学生に指示を与えて いた		数学の基礎力が低下している中、工夫 をしていることが良くわかる。
一般(自然)	ボールを使ったトレーニング 活動中の動きを図示説 明された。	穏やかな声でゆっくりとわ かりやすかった。	出欠確認を確実にされ、そ の後、前回の内容の復習と 今回の授業の説明をされ た。	寒い体育館で説明は要領よく簡 潔に行い、身体を動かして進まり ながら活動中に適宜説明が補足 されていた。	なし	身体を動かす時間を十分 に確保されていた。	板書や説明がわかりやすく、 すぐにトレーニング内容を 実践できた。		
一般(自然)	ホワイトボードを使用して試 合の動きを記入する場所 を指示していた。	適切な声量とスピードで あった。	名前を読み上げるとともに 顔を見て出席の確認を行っ ていた。	バドミントン(試合形式)であ ったが、本時の目標を明確に説明 した後に試合を行っていた。					
一般(自然)		・授業に伴う注意事項を最 初に明確に説明していた		・学生の自主性を尊重した授業 進行					・学生同士でどのように協議を進めるか 議論する姿が見られた
一般(自然)	・電子ノートをプロジェクタ に映していた。	・ややゆっくり話されてい た。	・前回の授業に関連付けな がら授業を進めていた。	・教員の教科書解説→学生の例 題解答→教員の例題解説…を繰 り返して進んでいた。	・教科書そのものも時折プ ロジェクタに映していた。		・学生に例題を解かせるこ とで確認していた。		
一般(自然)		実験室の各テーブルを丁寧 に巡回し、学生に対して 積極的に声をかけていた。		安全に実験が進められるよう、 技術職員と連携をとりながら授業 を進めていた。	実験手順を示したプリント を配布しており、内容がわ かりやすかった。			機器の破損などのトラブル 時にも、迅速かつ冷静に対 応されていた。	
一般(自然)		説明が丁寧で聞き取りやす かった			実験プリント	各自で実験を進める時間 がしっかり確保されており、 学生も意欲的だった。		器具の破損等にも瞬時に 対応していた。	
電気電子	ていねいに板書されてお られた。	ゆっくり、確実に講義されて おられた。	前回のポイントをきちんと 押さえて復習しておられ た。						
電気電子	プロジェクタを使用し、資料 が見やすかった。	・声を張っていた。							
電気電子	・スライドを1枚ずつ丁寧に 説明していた。	・聞き取りやすいスピードで 話されていた。	・出席を取ってから、授業 の流れを説明していた。	・学生に質問等しながら進めて いた。			・学生の状況を確認しなが ら理解度を確認していた。		

令和5年度（後期）公開授業週間「FDレポート」

※ 授業担当者の 学科(教室)	■ 参 考 に な っ た 点								■その他
	板書やプロジェクタ・OHP の使い方	教員の説明 (声の大きさ・スピード等)	授業の導入 (出席の取り方、前回の復 習等)	授業の運営方法	教材や配布物 (小テスト・プリント)	課題や演習の時間配分	理解度の確認	その他	
電子情報		声が聞きやすく、ゆっくりと 丁寧でした。内容的にも説 明が丁寧でわかりやすいと 思いました。							
電子情報	・板書の字が丁寧である。 ・文字が大きくて見やすい。	・落ち着いたかみしめるよう に話されていて聞きとりや すい		・板書と説明がバランスよくわ かりやすい		・授業内容の例題を速やか に解かせることで理解を深 めていた。	・毎週、授業の最後に課題 を与えて提出させていた。		
電子情報		聞き取りやすい声であっ た。	miti				学生にクラス図を記載させ ていた。		この授業がどのMOGIに対応可能である かの認識が改めることができた。
電子情報					実験教材も分かりやすく、 学生が自ら学べるように工 夫されている。			学生が楽しそうに真摯に取 り組んでいた。	昨年度まで実施していたライントレース 実験をリニューアルした実験である。
電子情報	板書がきれいで、特に数式 が見やすい	声のトーンのリズム感が心 地よい		丁寧な数式の展開が参考になっ た					
物質		・大きな声で分かりやすく話 していた。 ・専門的な話を日常生活の 話題とリンクさせながら話し ていた。	・前回の復習と今回の目的 を伝えていた。						
物質	オリジナルの実験プロトコ ルを用意されており学生に 親切である	明確で大きな声で指導され ており大変よい		配布資料に結果を記入していく 方法であり簡潔明瞭である	配布資料に結果を記入して いく方法であり簡潔明瞭で ある		産学とのリンクがよく学生 の理解が容易になっている といえる		
物質	・板書の字が大きく見やす い。	・アラホのため、マイクを使 用していた。		・学際のため、わかりやすさに努 め、適度にレクリエーションを交 えていた。	・自作のカルタを使い、工 夫されていた。		・授業中に理解度を確認し ていた。		
物質	板書の字がきれいで見や すい。かつ十分にノートが 取ることのできる板書ス ピードで黒板を使用してい た。	教室の最後尾でも十分に 声が聞き取れる声量でし た。	前回の前振りの回収を行っ ていました。					有機化学の官能基の復習 をしながら構造式を説明し ていてわかりやすかったで す。	白チョークだけで板書が成り立っている ところがすごいと思いました。私だったら 黄色とピンク色のチョークのどちらかも 使って2色にすることが多いです。
物質	プロジェクター(パワポイ ント)を使用しており、学生 に見えやすい(学生が見や すい)。	学生に伝わる大きさの声。	丁寧に授業内容を説明して いる。		教材等は教科書を使用。				
物質	板書とプロジェクターを両 方とも使用していた。板書 では、細かい説明を、プロ ジェクターでは大まかな概 要説明をしていた。	・後ろまで難なく聞える。	その日に授業する内容をま ず箇条書きで提示し、先に 結論を言っていた。結論を 言った上で、授業に入るの は新鮮。非常に良いとは思 うが、自身の授業に取り入 れるかは悩ましい。学生に 調査の上、導入を検討した い	時折学生に問題を提示したり、 「10秒で考えてみよう！」という時 間を作ったりと、受講する学生が 能動的になるきっかけを作ってい たように思う	授業スライドを抜粋したも のを配布していた。上記資 料は、穴抜きになっており、 授業中にその穴抜き部分 を学生が記入するというス タイルだった。				
物質	学生の実験結果を板書す ることで聞き逃した学生へ の対応や、より考える機会 を考えていた。	寸劇をいれることで、学生 からの注目を集め、さらに、 立体的に理解出来るように していた。	実施内容について、古谷先 生の自己紹介も踏まえて、 学生に興味を持たせる説 明をされていた。	実施内容の基本的なところから 結果から考察まで学生に考えさ せるような流れになっていた。	実験操作から、原理、応用 まで、丁寧に説明されたプ リントを配布していた。	演習とレポートを書く時間、 考えさせる時間などバラ ンスが良かった。	実験レポートを提出させて いた。	基本的なところから教えて いたことから、学生から原 理も分かり楽しかったという 生の意見も聞けた。	
環境都市	ホワイトボードを丁寧に利 用している	自由に演習させている		パソコンで演習させている			学生間で確認しあっている		
環境都市		声の大きさは適切であっ た。							不具合のある製図板が多いため、他の 手段で製図に取り組めることが必要で ある。
環境都市	既成杭や場所打ち杭、ベタ 基礎等の写真、フーチング や杭基礎、ケーソン基礎の 図をスライドで示しながら説 明されていた。	教室後方からも聞き取れる 大きさの声ではあるが、机 の上に置いた教科書を読 んでいる際は下を向いて話 をされていた。学生の方を 見ながら(教科書を持って) 話をすると良い。		教科書に沿って基礎(フーチン グ、杭基礎、ケーソン基礎)の話 をされていた。教科書の説明で不 足する部分は、写真を示しながら 解説されていたところが良かった。			「PCとRCって知っています か？」等学生の知識を確認 しながら説明されていた。 学生は知らない専門用語も 多いと思われるので、その 都度、確認されていて丁寧 だと感じた。	ポイントをおさえてノートづく りをさせると良い。	
環境都市	ホワイトボードを使った少 人数への説明で理解しや すい。	ゆっくりと聞き取りやすい 声。	実験の導入として目的を明 確に説明していた。			まとめの時間を作ってレ ポートの完成をサポートし ていた。	まとめの時間に試問を課し 理解度を確認していた。		
環境都市	板書のスペースを先に説明 しており、ノートが作りやす いと感じた。文字の大きさも 後方からでも読める大き さだった。	声も大きく、ききやすいス ピードであった。		配布プリントがあり、要点がわか りやすい授業設計になっていた。	配布プリントを埋めることで ノートになるようになってい た。補足の部分はノートに 書くという進め方で、後から 見返した時にわかりやすい ものと感じた。		その都度、学生の理解を確認 していた。質問を投げかけ る場面もあり、学生も真 実に取り組んでいる印象を もった。		

FD 研修会

FD ワークショップ（教育と研究のバランスの話）の開催について

（案内メール）

日時：9月13日（水）P.M. 1:30～2:30（教員会議開催日）

場所：大講義室

内容：教育と研究のバランスの話

皆さんは、福井高専に赴任した際、今までやってきた研究を継続的に行いたいと思っておられたのではないのでしょうか？

でも、実際に授業が始まって、学生指導や課外活動の指導等に忙殺されて研究をしている時間がないじゃないか、とこの怒りをどこにぶつけたらいいんだ、と考えられたことはないのでしょうか？

- ・高専で、教育と研究のバランスをどんなふうにとっていけばいいのだろうか。
- ・専門の研究に加えて、授業方法の研究はなぜ必要なのだろうか。
- ・そもそも高専で研究が必要である理由はなんだろうか。
- ・研究時間を捻出する巧妙な方法はないだろうか。
- ・研究を継続的に続ける工夫はないだろうか。

等々、皆さんで話し合っ、教育と研究のバランスについて、知恵を出し合うワークショップを開催したいと思います。

（当日の状況）

参加者15名 P.M. 1:30～2:30

3グループに分かれての意見交換後、各グループ代表者により発表があった。



教育と研究のバランス

教育と研究のバランスに関するWS

- 皆さんは、福井高専に赴任した際、今までやってきた研究を継続的に行いたいと思っておられたのではないのでしょうか？
- でも、実際に授業が始まって、学生指導や課外活動の指導等に忙殺されて研究をしている時間がないじゃないか、とこの怒りをどこにぶつけたらいいんだ、と考えられたことはないのでしょうか？
- 高専で、教育と研究のバランスをどんなふうにとっていけばいいのだろうか。
- 専門の研究に加えて、授業方法の研究はなぜ必要なのだろうか。
- そもそも高専で研究が必要である理由はなんだろうか。
- 研究時間を捻出する巧妙な方法はないだろうか。
- 研究を継続的に続ける工夫はないだろうか。

グループワーク

- 4， 5 人のグループを作ってください。
年齢が偏らないように分かれてください。
ネガティブな話ではなく、ポジティブな意見交換をお願いします
- 教育（校務）と研究のバランスはどれくらいですか？
例） 教育 5：研究 5、教育 9：研究 1 など
- バランスがうまく取れている人はいますか？
自分を含めて、周りの教員で
- 研究は1人でやっていますか？
学内の教職員、学外との共同研究を行っていますか？
- 研究を進める上で困っていることは何ですか？
解決方法をみんなで考えましょう。

<FD 研修会開催通知>

令和 5 年 10 月 12 日

教職員 各位

教 務 主 事
創造教育開発センター長

令和 5 年度 F D 研修会（教務システム運用説明会）の開催について

このことについて下記のとおり開催しますので参加願います。

記

内 容：教務システム機能の説明及び点数等の入力

新しい教務システムの機能の説明及び点数等の入力の研修会を実施します。昨年度も機能については概要を説明していますが、今年度は、実際に担当科目の確認を行い、今後、後期の成績入力を行う予定です。加えて、新たに導入を検討中の Web における出欠管理機能についても実際に試行していただきます。加えて、学生の指導要録登録や閲覧機能についても説明しますので、可能な範囲で Wifi 接続可能な PC をご持参ください。（30～45 分程度）

なお、この説明会は今回の説明会のご意見をふまえた上で、11月の教員会議終了後にも実施予定です。

日 時：令和 5 年 10 月 25 日（水）教員会議終了後すぐに開催します。
16：30～17：15（予定）

開催場所：大講義室

対象者：教職員

参加申込：当日受付

その他：マニュアルをご準備ください。

※説明会前に実際に入力等の作業をしていただいても問題ありません。

<FD 研修会開催通知>

令和 5 年 1 1 月 日

教職員 各位

教 務 主 事
創造教育開発センタ
ー長

令和 5 年度 F D 研修会（第 2 回教務システム運用説明会）の開催について

このことについて下記のとおり開催しますので参加願います。

記

内 容：後期中間学力確認週間における特別時間割の作成及び点数等の入力準備

前回 (R5.10.25) 実施した新しい教務システムの機能の概要をおさらいします。その後、試験期間中の出欠管理機能を有効にするために、先日教務係より配付した中間学力確認週間時間割に基づき各担当科目の時間割の作成方法を説明します。説明会終了後、後期中間学力検査の時間割り、試験終了後には成績入力（試験を行わない場合は欠課時数の入力）を行ってください。

あわせて、教務システムを学生カルテとしての活用した場合の検討内容及び要望事項等を確認したいと考えております。

前回同様、可能な範囲で Wifi 接続可能な PC をご持参ください。（15～30 分程度）

日 時：令和 5 年 1 1 月 2 2 日（水）教員会議終了後すぐに開催します。

16：30～17：00（予定）

開催場所：大講義室

対象者：教職員

参加申込：当日受付

その他：マニュアルをご準備ください。（教職員 Teams にあります。）

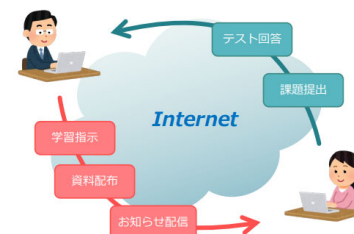
※説明会前に実際に入力等の作業をしていただいても問題ありません。

WebClass利用説明会

3月14日（木）15:30～16:30

WebClassとは？

WebClass はLMS（学習管理システム）で、Webブラウザを通じた授業資料の配布、オンライン上のテスト、課題提出、アンケートなどを行うことができます。



WebClassの主な機能

- 資料の配布
- レポート管理
- オンラインテスト
- アンケート
- 掲示板・チャット
- 成績管理
- お知らせ作成

推奨ブラウザ： Firefox 122 / Firefox ESR 115 / Google Chrome 122 / Microsoft Edge / Safari 16, 17 (17.1を除く)
スマートフォン・タブレット： Android 8～ 上の Chrome ブラウザ / iOS 16～17 および iPadOS 16～17 の Safari

WebClassとは？

WebClass はLMS（学習管理システム）で、Webブラウザを通じた授業資料の配布、オンライン上のテスト、課題提出、アンケートなどを行うことができます。

WebClassの主な機能

- 資料の配布
- レポート管理
- オンラインテスト
- アンケート
- 掲示板・チャット
- 成績管理
- お知らせ作成

WebClassの資料

ICT勉強会フォルダの資料

- [WebClassコース管理者マニュアル.pdf](#)
- [WebClassユーザマニュアル.pdf](#)
- [やりたいことから参照できるWebClassの使い方.pdf](#)
- [他大学教材作成マニュアル（参考資料）](#)

リンク

- [日本データバシフィック株式会社（WebClassページ）](#)
- [WebClass R&Dチームサイト](#)
- [WebClass Fan](#)

Youtube

- [日本データバシフィック](#)

WebClassへのログイン

- 以下のページにログイン

<https://webclass.kosen-k.go.jp/>

WebClassのトップページ

学生自身に登録させる場合は、メンバー限定モードを「**No**」に設定してください。コース管理者がユーザー登録の場合は、「**Yes**」に設定してください。

コースパスワードを設定しないと、だれでも登録できるようになります。

学生が登録する場合は、最初のページにある「コースの追加」ボタンを押して検索します。ただし、年度と学期の指定を正しくないと異なるコースが表示されます。

Figure 1: Screenshot of the 'User Information' page in the 'User Management' system. The page shows a list of users with columns for 'User ID', 'User Name', 'User Email', 'User Password', and 'User Role'. The 'User ID' column is highlighted with a red box. The 'User Name' column is highlighted with a red box. The 'User Email' column is highlighted with a red box. The 'User Password' column is highlighted with a red box. The 'User Role' column is highlighted with a red box. The 'User ID' column is highlighted with a red box. The 'User Name' column is highlighted with a red box. The 'User Email' column is highlighted with a red box. The 'User Password' column is highlighted with a red box. The 'User Role' column is highlighted with a red box.

The screenshot shows the AWS IAM console 'Groups' page. A red box highlights the 'Add new group' button. A blue arrow points from this button to the 'Groups' page in the bottom right corner of the figure.

WebClass
19_19_専門基礎Ⅰ（前期） 管理

教材一覧 教材作成 成績 出席 その他 メンバー コース管理 学生としてログインする ログアウト

タイムライン

教材一覧

期コース一括コピー

教材を作成する

さらに過去の記録を参照

1 授業概要、情報リテラシー

1. 授業概要01 資料 更新 13日前 実行数量 2

2. コンピュータ・ネットワークに関するアンケート アドレック 更新 2日前 実行数量 3

2 情報センター演習および Microsoft365 の利用

1. 演習概要02 資料 更新 13日前 実行数量 1

2. 演習概要03 資料 更新 11日前 実行数量 5

3. 演習1_電子メール 更新 13日前 実行数量 3

教材を作成する

教材は作成済み
確認

1. 授業概要、情報リテラシー
2. コンピュータ・ネットワークに関するアンケート
3. 演習概要02
4. 演習概要03
5. 演習1_電子メール
6. Wordでの文書作成
7. 演習2_プレゼンテーション
8. 演習3_データベース

① 表示コースが表示されるので、選択する。コースが表示されない場合は、「コピーコース」欄で検索する。

② 「コピーコース」欄で、コピーするコースを検索する。

③ 「コピーコース」を選択する。

④ 表示コースが表示されるので、選択する。

⑤ 表示コースが表示されない場合は、「コピーコース」欄で検索する。

ipgw/7exs_e702k215

学生としてログインする

「教材を作成する」をクリック

教材を作成する

教材の登録/編集/削除設定

更新 1 時間前
再行登録

更新 24 時間前
再行登録

更新 24 時間前
再行登録

更新 24 時間前
再行登録

Top

資料を作成します。SCORM 教材もこちらからレポート提出課題を作成します。

テストを作成します。Hotpotatoes 教材もテストを作成します。

アンケートを作成します。

問題抽出機能

既存のテスト/アンケート教材から問題を抽出し、提示板を作成します。テーマに沿って意見や Wiki を作成します。複数人共同でページをチャットを作成します。リアルタイムに成果物への評価活動により、気づきの発見を

eポートフォリオコンテンツ

複数教材の実施順序の指定や、テストで合否判定に導かれる質問とその回答、また重なり学生の情報を記録/管理し、先生と学生の間に

資料

レポート

テスト

アンケート

問題抽出機能

提示板

Wiki

チャット

eポートフォリオコンテンツ

ユース

FAQ / 用語集

学習力ルネ

LTツール

登録

作成可能な教材一覧

教材の作成（テスト）

テストの実施期間、回数、表示方法、採点・欠課表示などを設定できる。

CSVファイルによる一括登録（最初だけ）

教材の作成（テスト）

テストの実施期間、回数、表示方法、採点・欠課表示などを設定できる。

CSVファイルによる一括登録（最初だけ）

教材の作成（テスト）

問題文の形式を選択

単数選択式、複数選択式、単語/数値入力、数値入力(精度設定可)、記述式、レベル選択、ドロップダウン選択

単数選択式、複数選択式、単語/数値入力、数値入力、ドロップダウン選択、順序付け、順序付け、順序付け、順序付け、順序付け、順序付け

教材の作成（テスト）

問題文を手入力htmlタグも使用可能

選択式や数値入力などの回答が可能

解説文も入力可能

教材の作成（テスト）

Word形式、html形式、Text形式、PDF形式の問題文を入力

Word形式、Text形式で数式を表現すると正しく表示されない場合がある。

テストの実施

テストの実施

[WebClass](#)
19_2023_3F_計測工学(前期)

[教材一覧](#)
[教材](#)
[成績](#)
[出席](#)
[学修成果可視化](#)
[その他](#)
[メンバー](#)
[コース管理](#)
[学生としてログインする](#)

19_米田 知照

[ログアウト](#)

お知らせがあります。

[成績一覧](#)
[選択状況一覧](#)
[出席分數ごとの成績](#)
[SCORM教材の成績一覧](#)

[タイムライン](#)

[さらに過去の成績を見る](#)

[成績評価](#)
[レポート/記述式問題の採点](#)
[類似レポート検知](#)
[レポート一覧](#)
[成績ごとの成績表示\(両表示\)](#)
[個人ごとの成績表示](#)
[アンケート集計](#)
[eポートフォリオ・コンテント評価分析](#)
[学習成果物一括インポート/エクスポート](#)

[教材を作成する](#)
[教材並び替え/スラッシュ設定](#)
[カギ文字](#)
[講義内容](#)
[課題](#)
[試験](#)

[課題1](#)
☐ 日程
利用可能期間: 2023/04/14 14:15 - 2023/04/21 13:00

[課題2](#)
☐ 日程
利用可能期間: 2023/04/21 14:20 - 2023/04/28 13:00

[更新 26日前](#)
[実行回数 392](#)

[更新 26日前](#)
[実行回数 353](#)

人数

平均値: 67.11
最大値: 100.00
最小値: 20.00
標準偏差: 19.26

人数	頻度
20	0
30	0
40	23
50	9

[illegible][illegible]

WebClass

19_2023_3E_計測工学(前期)

知能

19_2023_3E_計測工学(前期)

更新

教材一覧

教材

成績

出席

学籍成果可視化

その他

メンバー

コース管理

学生としてログインする

ログアウト

成績一覧

直評状況一覧

出席分野ごとの成績

SCORMで登録した成績一覧

成績評価

レポート記述式問題の採点

類似レポート通知

レポート一覧

問題ごとの成績表示/再採点

個人ごとの成績表示

アンケート集計

レポートフォリオ、コンテナ評価分析

学籍成果物-各出席レポート/エクスポート

お聞かせがあります。

タイムライン

さらに過去の記録

教材を作成する

教材並び替え/アップロード

カギズ

講義項目

課題

試験

更新 6月1日前
実行回数:16

更新 27日前
実行回数:24

更新 27日前
実行回数:32

更新 26日前
実行回数:32

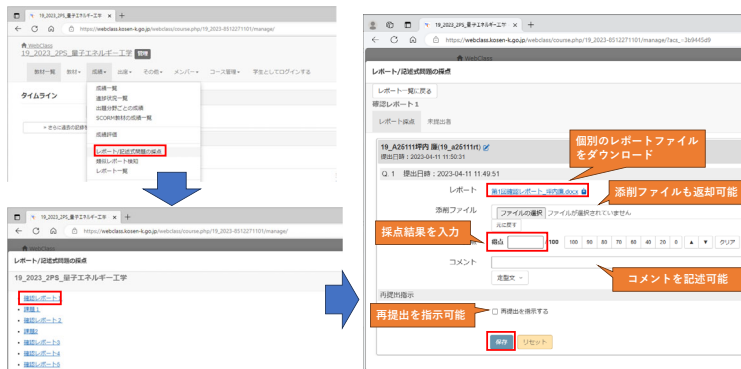
更新 26日前
実行回数:35

[illegible][illegible]

The screenshot shows the 'Properties' dialog box for a PDF file. The 'General' tab is active. The 'File name' field is highlighted with a red box. The 'File size' field is also highlighted with a red box. The 'File type' dropdown menu is open, showing 'PDF' selected. The 'File size' field is also highlighted with a red box. The 'File type' dropdown menu is open, showing 'PDF' selected. The 'File size' field is also highlighted with a red box. The 'File type' dropdown menu is open, showing 'PDF' selected.

[illegible]

レポート課題の評価



WebClassにない課題や定期試験の成績の入力

1. レポート課題を作成
2. 採点画面を表示
3. 【未提出者を表示】ボタンをクリック
 - ・誰も提出していないので受講生全員のリストが表示される
4. 【一括でブランクレコードを生成】ボタンをクリック
 - ・全員がレポートを提出した状態になり、採点の点数を入力できるようになる
 - ・個別でブランクレコードを作成することもできる
5. 採点結果を入力
 - ・個別で入力したり、Excelを利用して点数を登録



WebClassにない課題や定期試験の成績の入力

1. レポート課題を作成
2. 採点画面を表示
3. 【未提出者を表示】ボタンをクリック
 - ・誰も提出していないので受講生全員のリストが表示される
4. 【一括でブランクレコードを生成】ボタンをクリック
 - ・全員がレポートを提出した状態になり、採点の点数を入力できるようになる
 - ・個別でブランクレコードを作成することもできる
5. 採点結果を入力
 - ・個別で入力したり、Excelを利用して点数を登録



WebClassにない課題や定期試験の成績の入力

1. レポート課題を作成
2. 採点画面を表示
3. 【未提出者を表示】ボタンをクリック
 - ・誰も提出していないので受講生全員のリストが表示される
4. 【一括でブランクレコードを生成】ボタンをクリック
 - ・全員がレポートを提出した状態になり、採点の点数を入力できるようになる
 - ・個別でブランクレコードを作成することもできる
5. 採点結果を入力
 - ・個別で入力したり、Excelを利用して点数を登録



WebClassにない課題や定期試験の成績の入力

1. レポート課題を作成
2. 採点画面を表示
3. 【未提出者を表示】ボタンをクリック
 - ・誰も提出していないので受講生全員のリストが表示される
4. 【一括でブランクレコードを生成】ボタンをクリック
 - ・全員がレポートを提出した状態になり、採点の点数を入力できるようになる
 - ・個別でブランクレコードを作成することもできる
5. 採点結果を入力
 - ・個別で入力したり、Excelを利用して点数を登録



WebClassにない課題や定期試験の成績の入力

1. レポート課題を作成
2. 採点画面を表示
3. 【未提出者を表示】ボタンをクリック
 - ・誰も提出していないので受講生全員のリストが表示される
4. 【一括でブランクレコードを生成】ボタンをクリック
 - ・全員がレポートを提出した状態になり、採点の点数を入力できるようになる
 - ・個別でブランクレコードを作成することもできる
5. 採点結果を入力
 - ・個別で入力可
 - ・成績データのダウンロード
 - ・成績データの入力 & データの読み込み



1. レポート課題を作成
2. 採点画面を表示
3. **【未提出者を表示】** ボタンをクリック
 - ・誰も提出していないので受講生全員のリストが表示される
4. **【一括でブランクレコードを生成】** ボタンをクリック
 - ・全員がレポートを提出した状態になり、採点の点数を入力できるようにする
 - ・個別でブランクレコードを作成することもできる
5. **採点結果を入力**
 - ・個別で入力可
 - ・成績データのダウンロード
 - ・**成績データの入力 & データの読み込み**

[illegible][illegible]

操作手順

提出されたWordやPDFファイルの内容を比較して、類似度の高いレポートを教えてくれる機能

1. コースメニューから【成績】→【類似レポート検知】を選択
2. 【テスト/アンケート教材の回答】を選択
3. 「対象教材:」のプルダウンメニューから検知したい教材を選択
4. 【処理を開始する】ボタンをクリック
5. 「ジョブ一覧」が表示されるので、
「ジョブの状態」が【結果を見る】ボタンになるまで1分程度待つ
6. 【結果を見る】ボタンをクリック

[illegible]

インターネットを検索して類似文を探してくる 機能ではない

[illegible]

[illegible]

- ユニットの作成
ユニットとは、あらかじめ作成した「資料」「テスト」「アンケート」「掲示板」などを自由に組み合わせることが出来る教材です。数種類の教材をまとめて配布し、段階的な学習を行わせる必要がある時などに有効です。
- 会議室
「会議室」は学生内や、教員と学生間でテキストでの意見交換を行う教材で、掲示板・チャット・Wiki といったインターネット上のコミュニケーションツールとして使われる機能が提供されています。
- 出席管理
スマートフォンやパソコンから出席管理機能が利用できます。
- お知らせ・メッセージ
最新のお知らせやメッセージを確認したり、配信することができます。アイコンには通知件数が表示されます

- ・eポートフォリオ・コンテナ機能
eポートフォリオ・コンテナの大きな特徴は「学習と評価の一体化」と「学習プロセス」を保存し可視化出来る点です。
- ・学習記録ビューア
学習記録ビューアは、WebClassに蓄積された学習履歴や大学での活動データを集め、振り返りをサポートする情報管理プラットフォームです。
- ・「修学カルテ」機能
修学カルテは、高専での学修について、教員のレビューを受けながら、学生が定期的に目標の設定と達成の振り返りを行うためのツールです。
- ・「学修成果可視化」機能
入力された各データを集計して学修の到達度を可視化するシステムです。

WebClass はLMS（学習管理システム）で、Webブラウザを通じた授業資料の配布、オンライン上のテスト、課題提出、アンケートなどを行うことができます。



ICT勉強会フォルダの資料

- [WebClassコース管理者マニュアル.pdf](#)
- [WebClassユーザマニュアル.pdf](#)
- [やりたいことから参照できるWebClassの使い方.pdf](#)
- [他大学教材作成マニュアル（参考資料）](#)

リンク

- [日本データバシフィック株式会社](#)（WebClassページ）
- [WebClass R&Dチームサイト](#)
- [WebClass Fan](#)

Youtube

- [日本データバシフィック](#)

日 時：3月15日（金） 13：00～14：40

参加者：藤田教務主事、米田創造教育開発センター長含めて19名

一般科目教室教員が多い

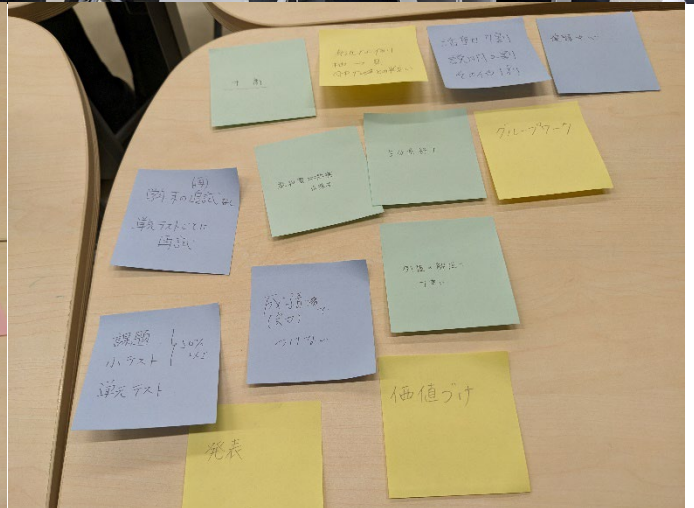
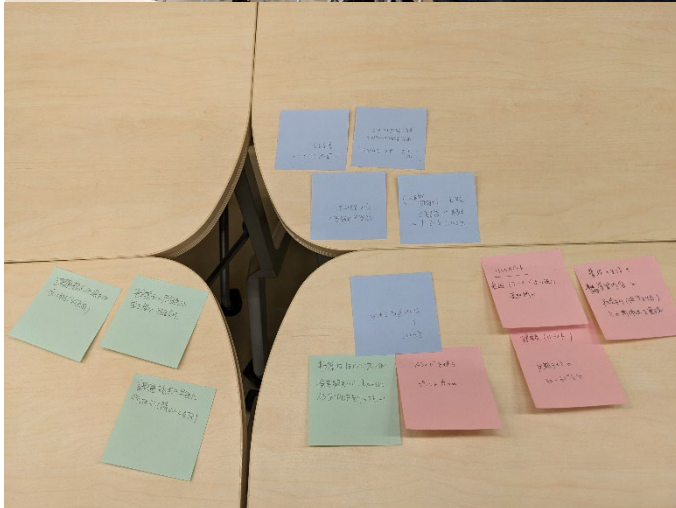
内 容：藤田教務主事の挨拶の後

相場先生 オーソドックスな授業

米田先生 Webclass の活用

藤田卓先生 スタディサプリについて

報告を行ったあと、4グループに分かれてグループワークを実施し、M 高橋先生、E 福嶋先生、G 中谷内先生、C 古谷先生が発表した。



<FD 研修会開催通知>

令和 6 年 2 月 1 9 日

教職員 各位

教 務 主 事
創造教育開発センター長

令和 5 年度 F D 研修会（授業方法におけるワークショップ）の開催について

このことについて下記のとおり開催しますの皆様のご参加をお待ちしています。

記

内 容：授業方法における事例の紹介とワークショップ

近年は多様な学生が在籍しており、学生の指導が難しくなっています。それは授業についても同じことを言えると思います。本ワークショップは、授業の方法や小テストのやり方、試験の実施方法及び学生へのフォローの仕方など様々な面から議論を行い、新学期からの指導に役立てることを目標としています。

研修会ではまず、3名の先生に実際に行っている授業方法についてご紹介いただきます。その後、参加者を複数のグループに分けてワークショップを行い、授業方法について議論とその内容の発表を通して全体で共有することで理解を深めたいと考えています。

日 時：令和6年3月15日（金） 13：00～14：30（予定）

開催場所：大講義室

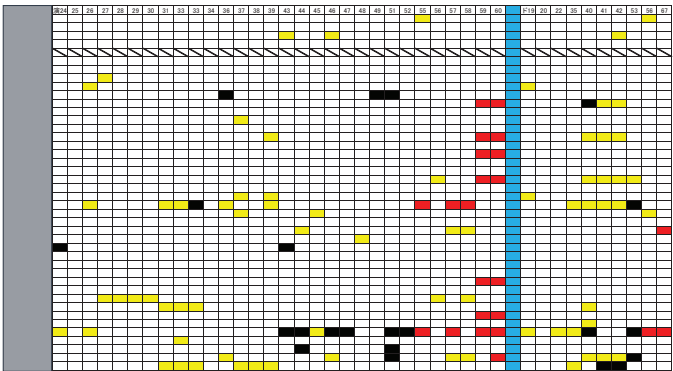
対象者：教職員（事前申し込みは不要です。）

成績評価と再試験

- 試験80% 課題20%
- 今年度, 解析Iは各定期試験ごとに再試験を実施
 - 再試験を受験するための2条件
 - ・ 課題を全て提出 (提出状況は適当なタイミングで案内)
 - ・ 受験するかどうかをformsで回答
 - * 課題を全て提出する必要があるため課題点は高い
 - * 再試験を受験しないと判断する学生も複数いた (理解できていない部分をもう一度やり直したい)

7

課題提出状況 (例 後期)



8

授業形式 (今年度の2M・2E 解析I)

- 説明・例題解説 → 問題演習
 - 演習プリントが課題
 - 1コマ1枚程度の量 (授業中に7, 8割は終わる量)
 - 説明・例題 (ノート部分) も演習プリントの一部とした
 - ノート+課題で1枚 → 一週間後の授業で提出
- 問題演習中
 - 苦手な学生が1人で考えても解決しないため席移動自由 (ヒント程度)
 - 自分もクラス全体を周りながら質問受付 **基本的に自席で解いている**
 - できる学生が積極的に周りに教えていたので非常に助かった (他の学生も真面目に取り組んでくれた)

9

問題量 (1コマ)

考え方解説+公式導出 (ノート部分)

(1) 例題, 他前半演習 相談・ヒント程度で席を移動してもよい。解くときは自分の席で解いている。

考え方解説+例題 自席に戻る。2つ目の例題を解説。

残り演習問題 前半同様、相談・ヒント程度で席を移動してもよい。

10

終わり

- 思っていたよりもかなり遅くしてちょうどよかった
- 小学校・中学校の内容で理解があやふやな学生の問題は解消できていない

11

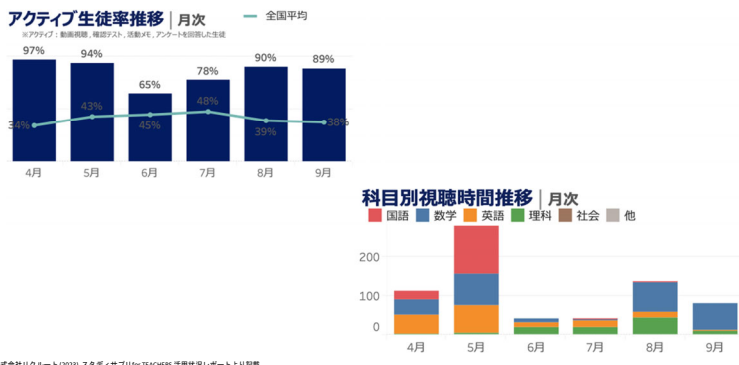
スタディサプリについて

一般科目教室 藤田 卓郎

スタディサプリとは

- 株式会社リクルートが提供するeラーニングサービス
 - 小学校レベルから大学受験レベルまでの授業動画・基礎的な演習問題がある
 - 講座に応じた簡単な演習問題集が提供されている
 - 到達度テストが提供されている
- 本校は1年生を対象に実施
 - 3月から4月：新入生を対象に春休み課題Bsementを実施
 - 4月：到達度テストの実施（英数国）
 - 5月：到達度テストの結果に連動した中学校復習課題を1年生全員に実施
 - 6月～7月：試験範囲に該当する教材を周知・配信（英・数・物・化）
 - 夏休み・春休み課題（数学・英語）
- 前提
 - 授業の主たる教材として活用はしていない（シラバスと合わない点もあり）
 - スタサブ導入→成績向上ではなく、学習環境整備・データ収集として活用

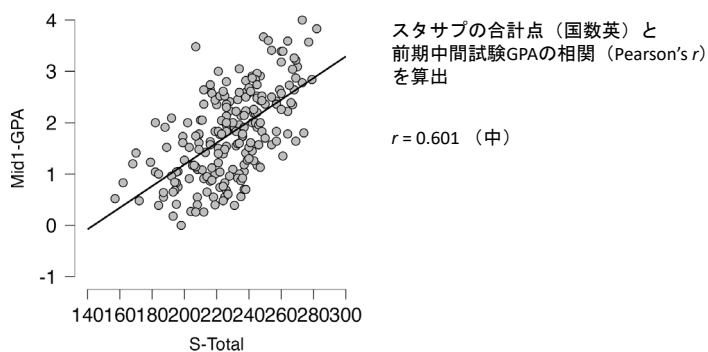
スタディサプリの活用状況（前期）



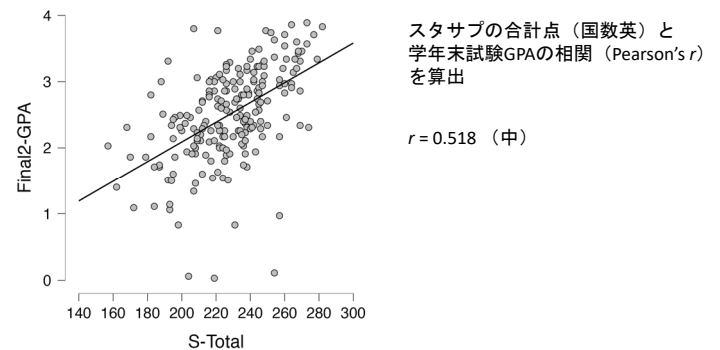
スタディサプリの活用状況（前期）

	<i>r</i>	<i>p</i>	相関の程度
スタサブ (SS) - 中間			
SS国語 - 中間国語	.228	<.001	弱
SS数学 - 中間解析A	.470	<.001	中
SS数学 - 中間解析B	.306	<.001	弱
SS英語 - 中間英語	.678	<.001	中
スタサブ (SS) - 期末			
SS国語 - 期末国語	.288	<.001	弱
SS数学 - 期末解析A	.474	<.001	中
SS数学 - 期末解析B	.315	<.001	弱
SS英語 - 期末英語	.709	<.001	強

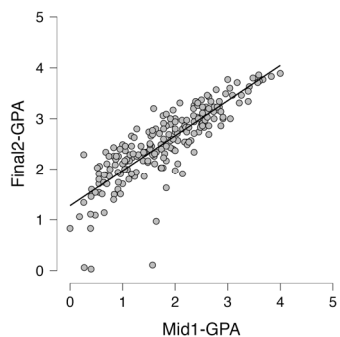
スタディサプリ（点数）と前期中間（GPA）



スタディサプリ（点数）と学年末（GPA）



(参考) 前期中間 (GPA) と学年末 (GPA)



前期中間試験GPAと
学年末試験GPA
の相関 (Pearson's r) を算出

$r = 0.840$ (高)

FDワークショップ

授業方法について

担当科目

- 専門基礎Ⅰ（1年）
- 電気回路Ⅰ（2年）
- 計測工学（3年）
- 電力エネルギー工学（学際3年）
- 電力系統工学（5年）
- 工学倫理（5年）
- 量子エネルギー工学（専攻科2年）
- 電子創造工学（3年）
- 電気電子工学実験Ⅲ（4年）
- 生産システム工学実験Ⅰ（専攻科1年）

私の担当授業について

- 担当しているすべての授業でWebClassを使用
 - 講義資料をすべて公開
 - 課題提出・小テストも基本すべてオンライン
 - 定期試験、課題点をすべて学生に開示
- 追試験を実施しないことを基本としていたが・・・
 - シラバスに示している学習内容を十分理解していれば合格
 - 逆に言えば、学習内容が理解できていなければ不合格
 - 持ち込みありで基本的な内容を確認するための追試をしても合格できない → 理解していない
- 電気回路Ⅰの追試験に学習効果があるのか？
 - 2年生の電気回路Ⅰは基本科目のため、合格するまで追試験を実施（R4年度は25回、R5年度は17回実施（全く理解していない学生も…））
 - ギリギリ合格した学生は、3年生でも履いている。電気電子工学科では2年生の基本科目の理解が不十分だと、上の学年では厳しい

2年生 WebClassの電気回路Ⅰコース

電力エネルギー工学の授業内容と進め方

- 配布資料を中心に授業を進め、電力工学の基本的な事項について説明する。
毎回の**確認レポート**と**課題**を課す。
- 講義資料の配布やレポートの提出については、WebClassを用いて実施する
<https://webclass.kosen-k.go.jp/webclass/>
- 成績評価：期末試験30%、課題70%
(確認レポート30%、課題40%)
- 3回以上の欠席で欠席超過となる（2回まで）
- 実施教室：大講義室、A-LAB

学際科目のため、毎回の確認レポートと課題をそれなりにすれば合格できる。

電力エネルギー工学の授業内容

- 電力利用の歴史と今後の展望
過去の電力利用、電力利用の現状と将来
- エネルギー資源と環境
エネルギー資源、日本のエネルギー事情、環境問題
- 発電
水力発電・火力発電、原子力発電、新エネルギー
- 電気エネルギーの伝送
送電方式、変電所の役割・分類、配電系統
- 電気エネルギーの貯蔵
電気エネルギー貯蔵の必要性、揚水発電、超電導エネルギー貯蔵

3年生 電力エネルギー工学コース

<https://webclass.kosen-k.go.jp/>へアクセス

講義資料の配布は行いませんので、各自でダウンロードして閲覧（授業時のPC, タブレット、スマホの使用可）授業週の月曜日までは講義資料をアップします。

毎回確認レポートを授業終了後にWebClassへ提出
授業終了後からオンラインの課題を実施
授業内容についての選択問題、計算問題の小テスト形式や講義内容に関連したレポートなど
講義資料にない問題もあります。
小テスト形式の課題は期限後はアクセスできません（締め切り厳守）

確認レポート

- 初回授業のみ配布。2回目以降は各自で印刷したものを用意するか、A4レポート用紙に記入して、**授業終了時に提出**
- 2枚以上の場合は、すべての用紙に名前とページ番号を記入し、ホッチキス止めはしない
- 成績評価の30%に相当
 - 内容が少ない場合や内容が異なる場合は減点します
 - 前半の内容のみなど授業で重要な点が含まれない場合も減点します。

課題

授業毎に課題テストを実施
選択問題を10問程度
成績評価の40%に相当

グループワーク

グループワーク (授業方法について)

- 自分の授業方法のキーワードを付箋紙に書いてみよう

グループワーク (授業方法について)

- 自分の授業方法のキーワードを付箋紙に書いてみよう
- 付箋紙のグループ化をしましょう

グループワーク
(授業方法について)

- 自分の授業方法のキーワードを付箋紙に書いてみよう
- 付箋紙のグループ化をしましょう
- 書いたものをみんなで見て、グループで話をしましょう

グループワーク
(授業方法について)

- 自分の授業方法のキーワードを付箋紙に書いてみよう
- 付箋紙のグループ化をしましょう
- 書いたものをみんなで見て、グループで話をしましょう
- 自分の授業の良いところ、気になるところを付箋紙に書いてみよう

グループワーク
(授業方法について)

- 自分の授業方法のキーワードを付箋紙に書いてみよう
- 付箋紙のグループ化をしましょう
- 書いたものをみんなで見て、グループで話をしましょう
- グループ内の授業方法をまとめてみよう
(代表者1名が発表)

教員間ネットワーク会議

令和5年度教員間ネットワーク会議 出席者提出表(赤字が座長)

	(学科長確認)	(学科長確認)	(学科長確認)	(学科長確認)	(学科長確認)	(学科長確認)	(学科長確認)
所属学科・教室名 会議番号1, 2・3, 3, 4は、右記の WG・打合せ会議で 兼ねる	1.社会及び技術者倫理に関するネットワーク会議 工学倫理WG	2-1.数学に関するネットワーク会議	2-2.物理に関するネットワーク会議	2-3.情報処理に関するネットワーク会議 数理・データサイエンス・AI WG	3.専門・複合科目に関するネットワーク会議 学際科目担当者打合せ	4.デザイン教育に関するネットワーク会議 プロジェクト演習打合せ	5.コミュニケーション教育に関するネットワーク会議 *プレゼンテーション教育を含む
座長	米田	千徳	挽野	亀山	山脇	亀山	野々村・西城
一般科目教室 (当該教科・科目)	木村・中谷内・川畑 (社会)	柳原・中谷 (数学・応用数学)	挽野 ・長谷川・土田 (物理・応用物理)	相場・長水		長水	木下 (英語・国語)
機械工学科	金田	千徳	村中	亀山	加藤・芳賀・亀山	藤田・ 亀山	高橋
電気電子工学科	米田	荒川 (電気数学担当)	秋山 (強電系科目担当)	米田・丸山	山本・米田・佐藤	秋山・西城	福岡・ 西城 (工学演習担当)
電子情報工学科	青山	波多	堀井	川上・西	斉藤・高久・西	青山・川上	小越
物質工学科	古谷	川村	西野	佐々	高山・ 山脇 ・佐々	川村・松野	後反・松井
環境都市工学科	大和	蓑輪	辻野	大和	樋口・辻野・奥村	奥村・芹川	野々村 ・吉田

*学際科目担当者 *プロジェクト演習担当者

各種アンケート

卒業生・修了生アンケート集計結果について（報告）

実施期間：令和5年8月7日～9月30日
（お盆休みの帰省期間を含むようにして実施）

調査対象：令和元年度、2年度、3年度 本科卒業生及び専攻科修了生
及び対象学生が就職・進学した企業・大学等

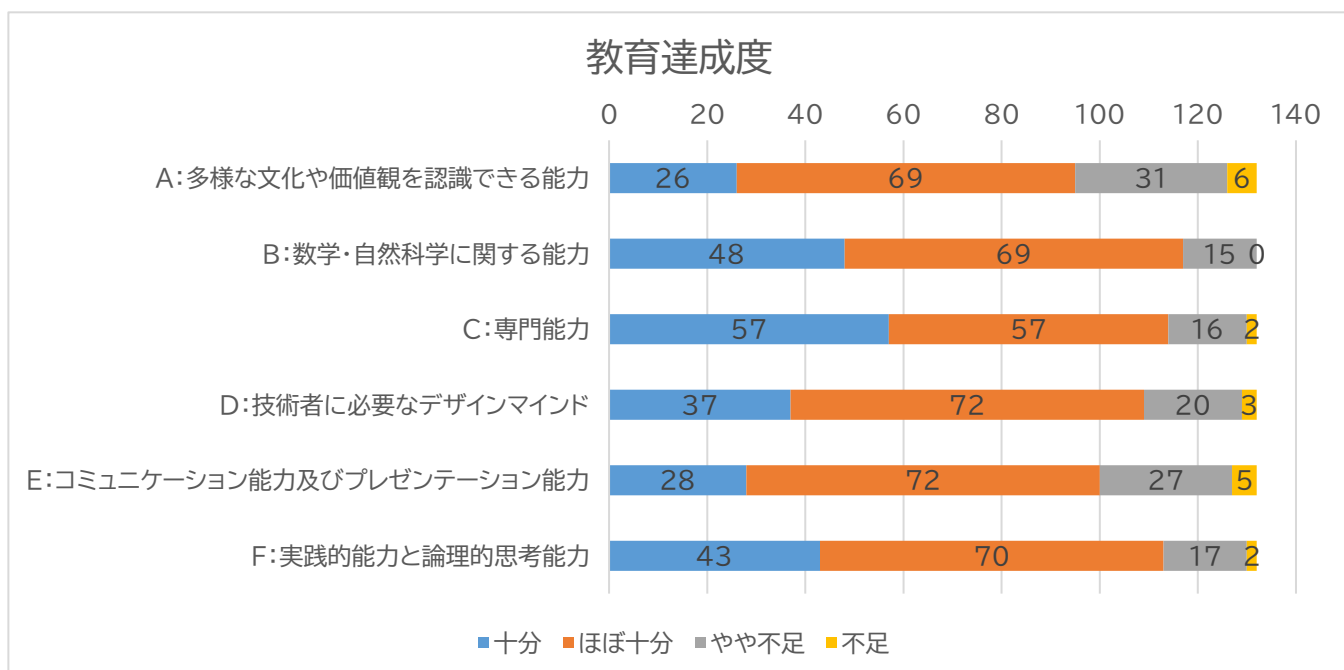
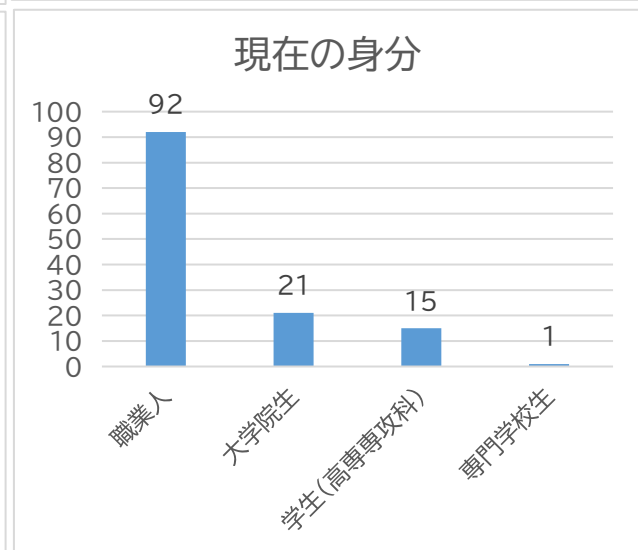
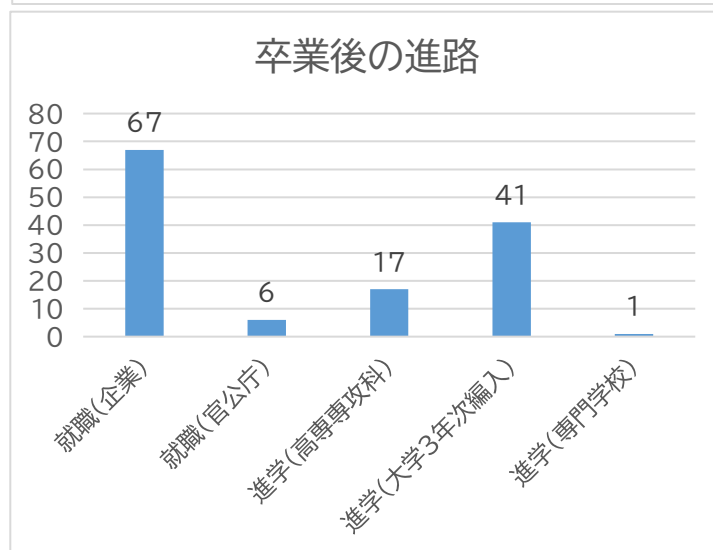
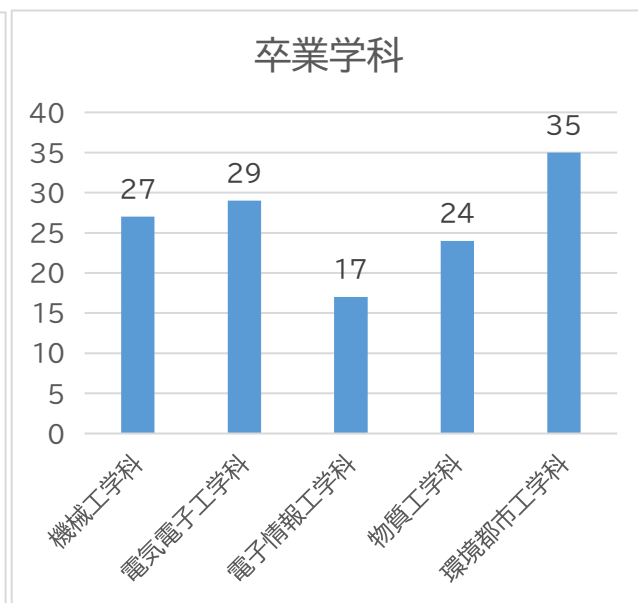
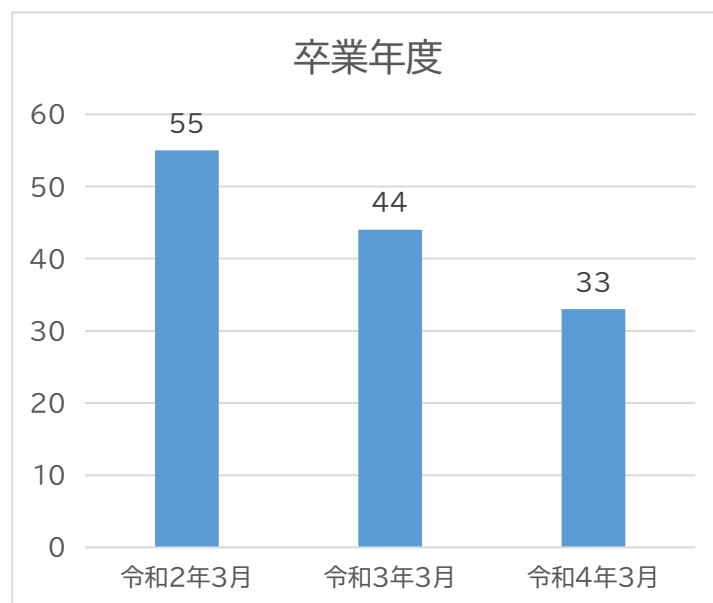
実施方法：郵送にて依頼し、文書に記載の URL 又は QR コードにより Microsoft Forms
で回答する。

送付先：卒業生・修了生 本校在籍時の住所
企業・大学等 所在地

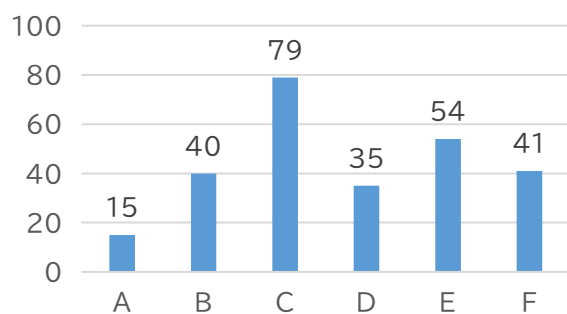
回答率：卒業生・修了生 573 名中 156 名（ 27.2%）
企業・大学等 264 社・校中 110 名（ 41.7%）
※宛先不明で返送されてきたものを除く

本科卒業生対象 アンケート結果（R5.8実施）

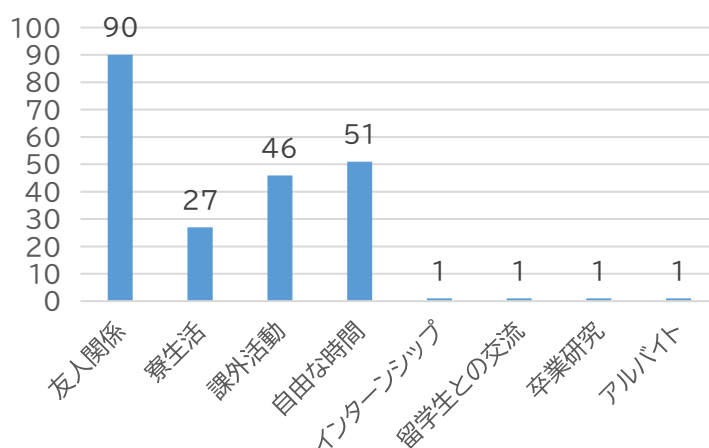
回答数132名



特に必要と思われる能力
(2つ選択)

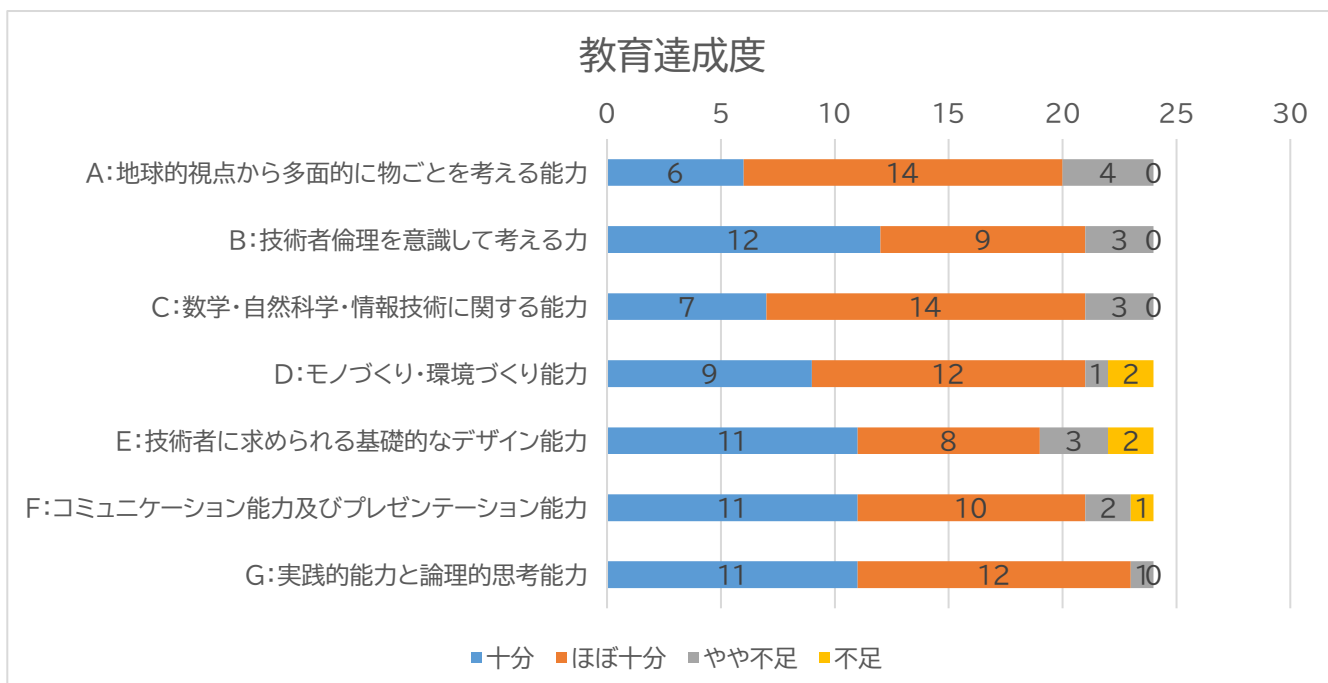
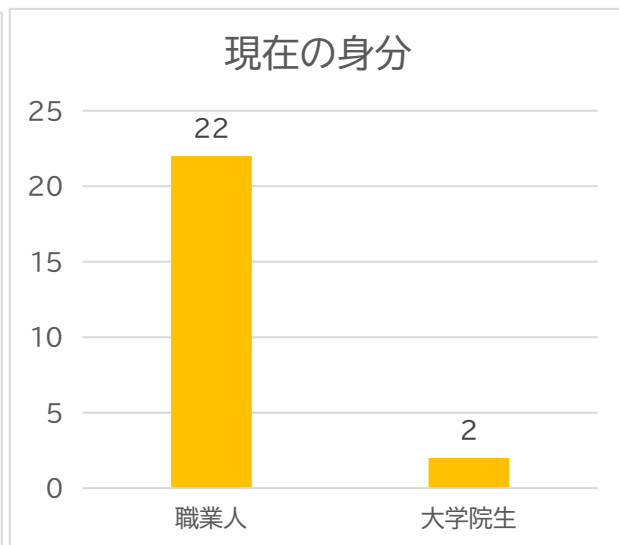
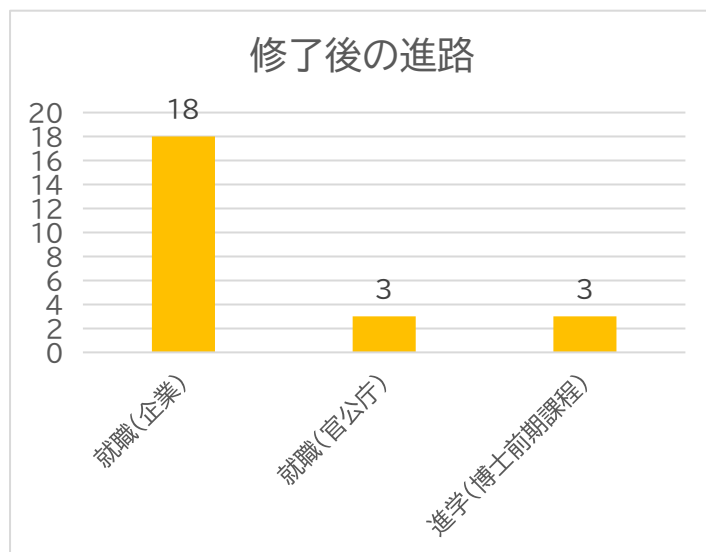
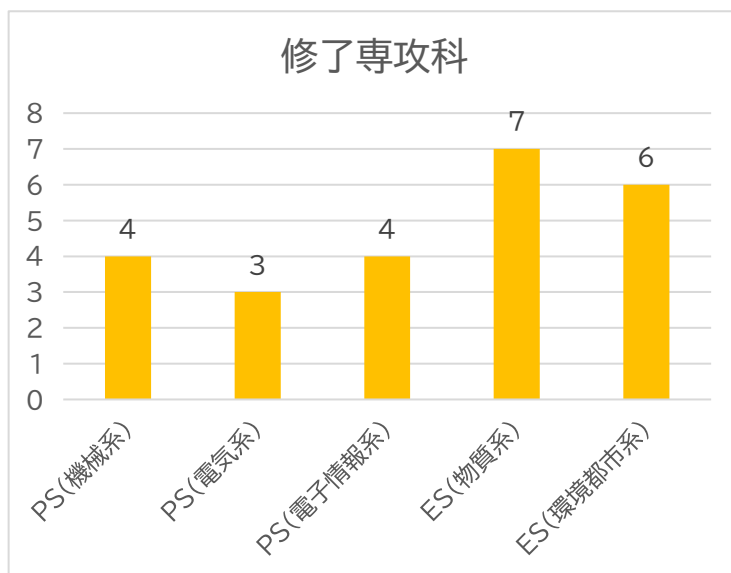


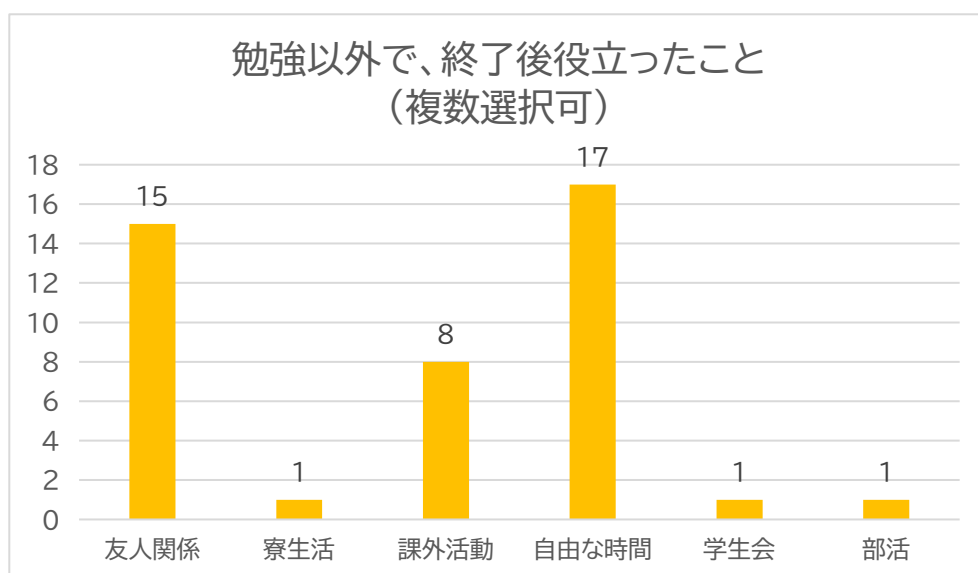
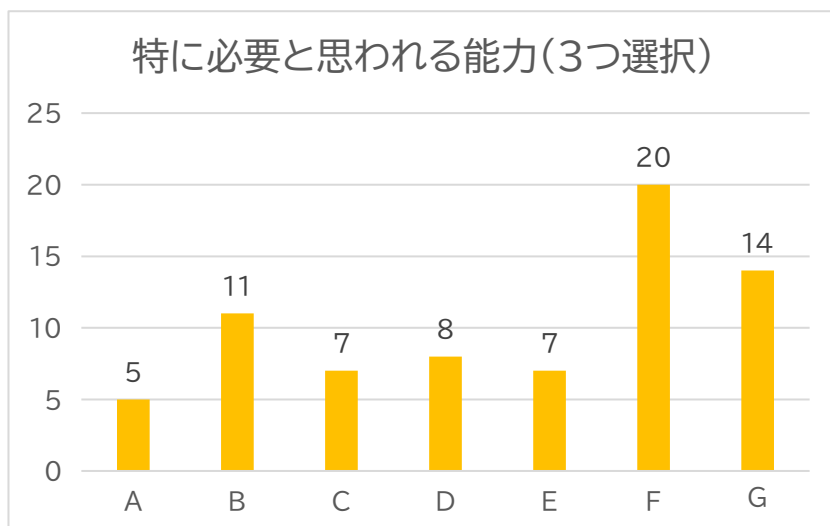
勉強以外で、卒業後に役立ったこと
(複数選択可)



専攻科修了生対象 アンケート結果（R5.8実施）

回答数24名



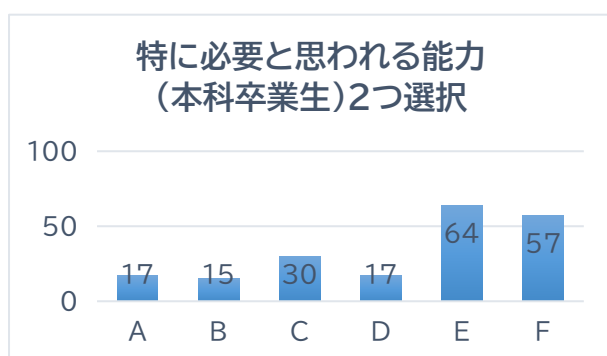
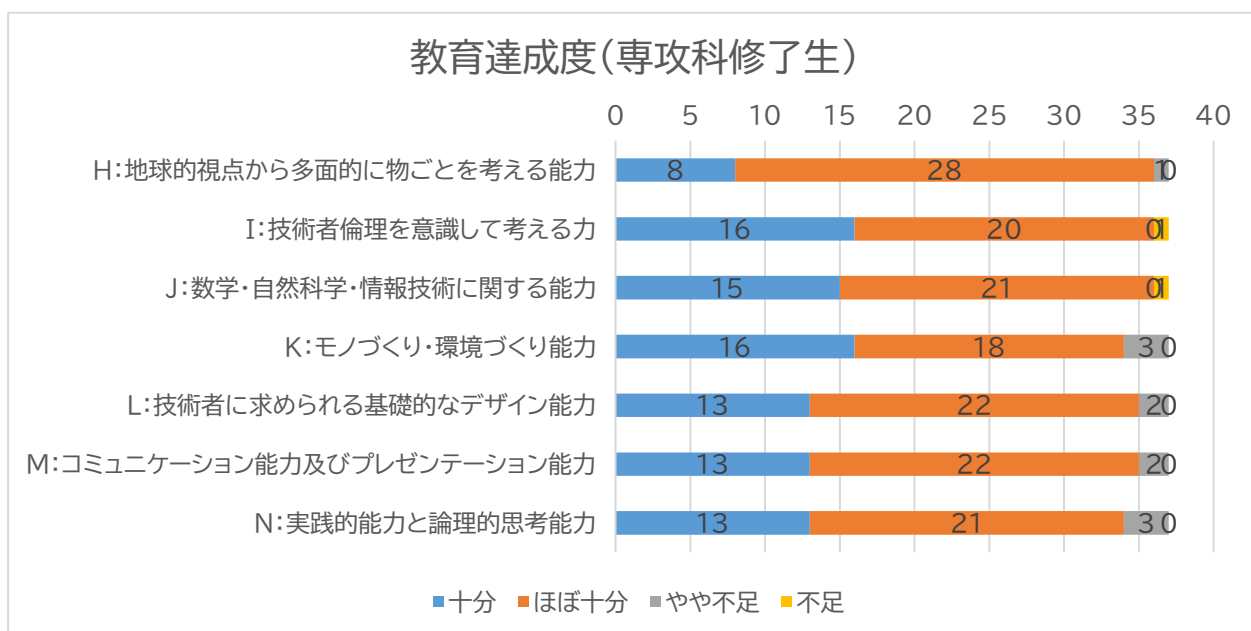
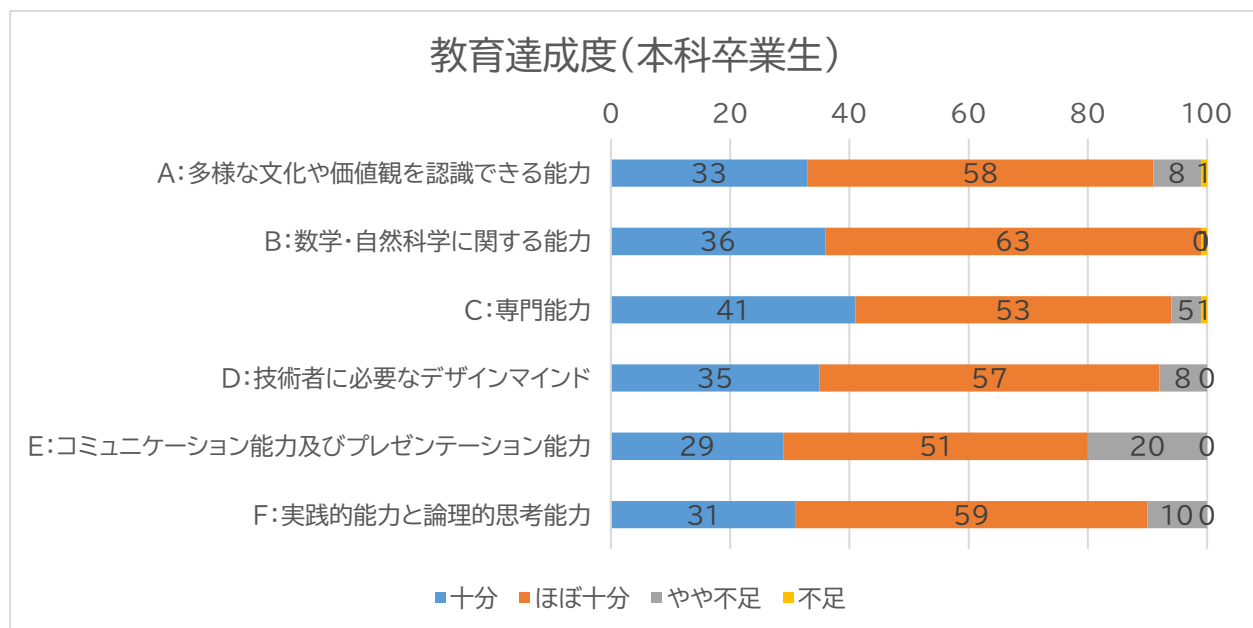


企業・大学対象 本校卒業生・修了生アンケート結果（R5.8実施）

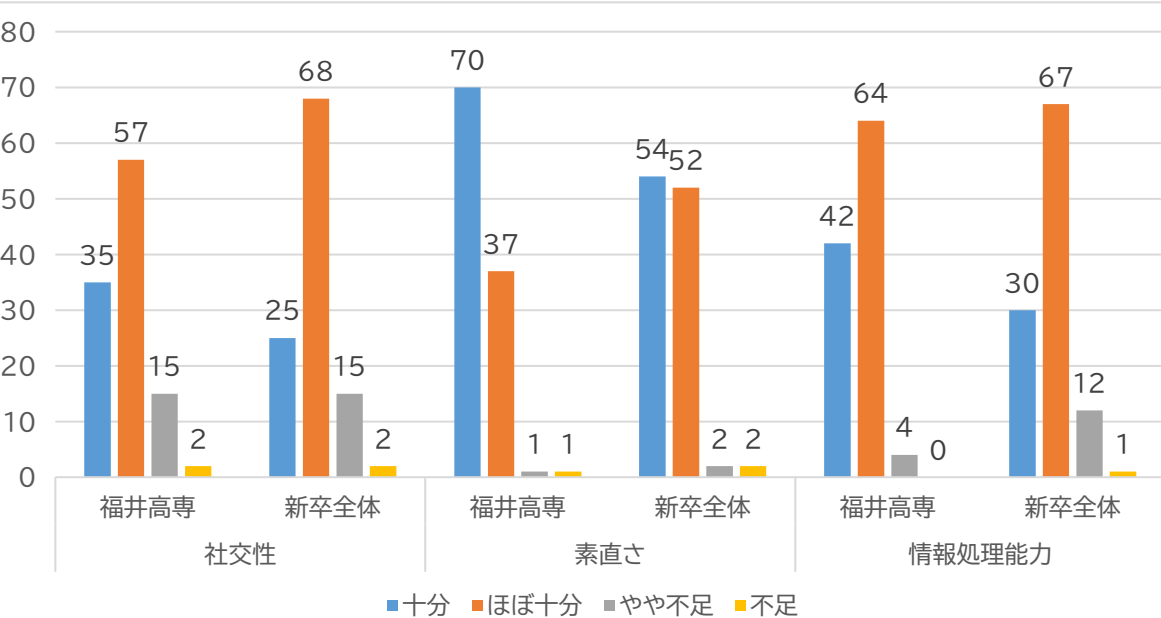
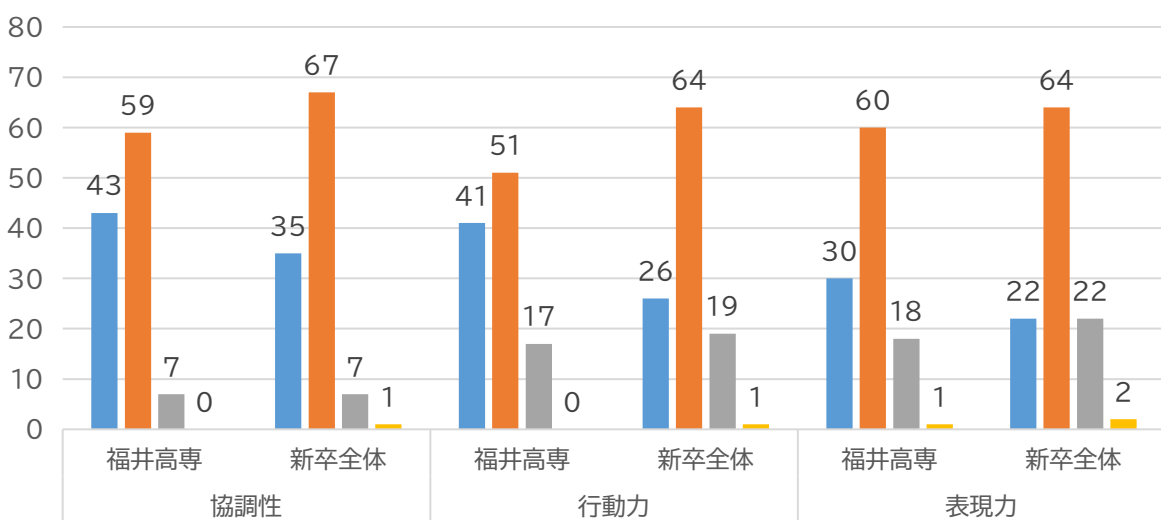
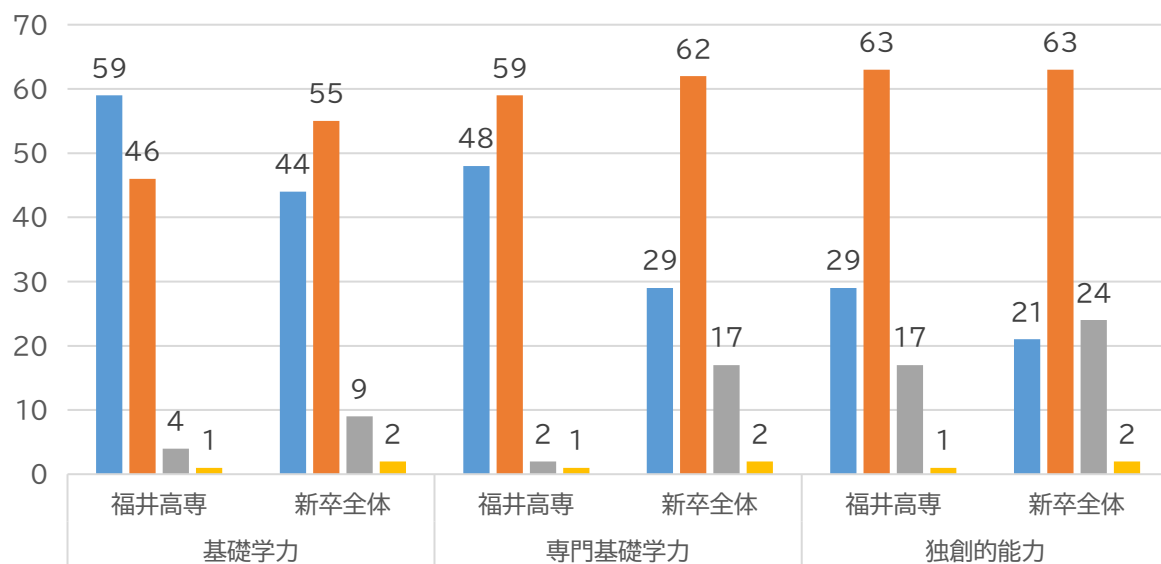
回答数103社・校

（本科卒業生在籍73社・校、専攻科修了生在籍10社・校 両方在籍27社・校）

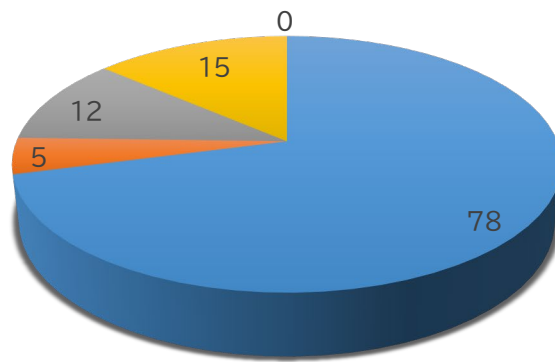
※卒業生・修了生別の設問は回答数（110社・校）とは一致しません。



新卒採用者の印象(卒業生・修了生共通)



採用時に期待される語学力(英語) TOEICスコア



■ 点数は特に必要としない ■ 400点程度 ■ 500点程度 ■ 600点程度 ■ 700点以上

(Forms で作成。アドレス・QR コードは依頼文書及びセンターホームページに掲載)

【本科卒業生】 令和5年度福井工業高等専門学校 本校卒業生対象アンケート

1. 福井高専を卒業した年を選択してください。

- ①令和2年3月
- ②令和3年3月
- ③令和4年3月

2. 卒業学科を選択してください。

- ①機械工学科 ②電気電子工学科 ③電子情報工学科 ④物質工学科
- ⑤環境都市工学科

3. 卒業後の進路を選択してください。

- ①就職(企業) ②就職(官公庁) ③進学(高専専攻科) ④進学(大学3年次編入学) ⑤その他()

4. 現在の身分に○を付けてください。

- ①職業人 ②学生(高専専攻科) ③学生(大学学部) ④専門学校生
- ⑤その他()

5-1. 福井高専で受けた授業カリキュラムの中で、あなたが卒業するとき、以下A～Fの能力が実際に身についていたと思いますか。4段階で評価してください。

A:「多様な文化や価値観を認識できる能力」

B:「数学・自然科学に関する能力」

C:「専門能力」

D:「技術者に必要なデザインマインド」

E:「コミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力」

F:「実践的能力と論理的思考能力」

【対応する科目】

A: 歴史、倫理社会、政治経済、地理、第2外国語(ドイツ語・中国語)、音楽、美術、歴史学特講、哲学、言語文化特講、日本文学論など

B: 数学、物理、化学、生物、工学倫理、数理統計学、工学基礎物理、応用数学、数学特講など

C: 専門科目や卒業研究

D: ものづくり関連科目や卒業研究

E: 国語、英語、コミュニケーション、国語表現、日本語表現演習。プレゼンター

F：保健体育、工学実験、実習、卒業研究など

A：公共心、共感・受容、情報収集、情報分析、言語処理、非言語処理

C：專門基礎・技術

D：課題発見、情報収集、情報分析、計画立案

E：言語処理、非言語処理、感情抑制

F：計畫立案、原因追及、自己理解、統率力、協働力、親和力

6. 福井高専で受けた教育に対して、良かったと思う点を設備なども含めて聞かせてください。（具体的に：（例）実験実習が充実していたなど）

7. 福井高専で受けた教育に対して、欠けていたと思われる点を設備なども含めて率直にお聞かせください。

(具体的に：(例) 経営関連分野や知的所有権なども勉強しておくべきだった)

8. 勉学以外で、卒業後に役立ったと思われることを選択してください。

また、自由に記述してください。

- ①友人関係 ②寮生活 ③課外活動 ④自由な時間

⑤その他（ ）

質問は以上です。ご協力どうもありがとうございました。

(Forms で作成。アドレス・QR コードは依頼文書及びセンターホームページに掲載)

【専攻科修了生】 令和5年度福井工業高等専門学校専攻科修了生対象アンケート

1. 福井高専専攻科を修了した年を選択してください。
 - ①令和2年3月
 - ②令和3年3月
 - ③令和4年3月
2. 修了専攻(学科系)を選択してください。
 - ①生産システム工学専攻(機械系) ②生産システム工学専攻(電気系)
 - ③生産システム工学専攻(電子情報系) ④環境システム工学専攻(物質系)
 - ⑤環境システム工学専攻(環境都市系)
3. 修了後の進路を選択してください。
 - ①就職(企業) ②就職(官公庁) ③進学(大学院博士前期課程(修士課程))
 - ④その他()
4. 現在の身分に○を付けてください。
 - ①職業人 ②学生(大学院博士前期課程) ⑤学生(大学院博士後期課程) ⑥専門学生
 - ⑦その他()
- 5-1. 福井高専専攻科で受けた授業カリキュラムの中で、あなたが修了するとき、以下A～Gの能力が実際に身についていたと思いますか。4段階で評価してください。
 - A: 「地球的視点から多面的に物ごとを考える能力」
 - B: 「技術者倫理を意識して考える力」
 - C: 「数学・自然科学・情報技術に関する能力」
 - D: 「ものづくり・環境づくり能力」
 - E: 「技術者に求められる基礎的なデザイン能力」
 - F: 「コミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力」
 - G: 「実践的能力と論理的思考能力」

【対応する科目】

- A: 生命進化論などの人文社会系科目及び地球環境などの専門共通科目
- B: 技術者倫理
- C: 工業数理、現代数学論、地球物理、量子力学、連続体力学、物質科学、生物学、ものづくり情報工学、画像情報処理、工学演習
- D: 専門展開科目(選択科目)

G：工学実験、インターンシップまたは海外インターンシップ、技術者総合ゼミナール、特別研究

G：計画立案、原因追及、自己理解、統率力、協働力、親和力

⑤その他（ ）

57

(Forms で作成。アドレス・QR コードは依頼文書及びセンターホームページに掲載)

【企業・大学】令和5年度福井工業高等専門学校

企業様・大学様対象 本校卒業生・修了生アンケート

1. 企業・大学(院) 名
2. 人事ご担当者名
3. 人事ご担当者連絡先 TEL (アドレスは Forms で収集する)

貴社・貴学へ令和2年4月～令和4年4月までに入社・入学した福井高専卒業生又は専攻科修了生全体の印象についてお答えください。

4. 福井高専本科卒業生又は専攻科修了生の教育達成度についてお聞きます。4段階で評価して○を付けてください。また、不足またはやや不足とお答えになった場合には、具体的な分野を()内に記載してください。

・・・・・・・・・・・・・・・・本科卒業生の場合はA～Gを回答・・・・・・・・・・・・・・・・
[十分・ほぼ十分・やや不足・不足]

【関連する能力】

- A：公共心、共感・受容、情報収集、情報分析、言語処理、非言語処理
- B：工学基礎、情報収集、情報分析、非言語処理
- C：専門基礎・技術
- D：課題発見、情報収集、情報分析、計画立案
- E：言語処理、非言語処理、感情抑制
- F：計画立案、原因追及、自己理解、統率力、協働力、親和力

- A：「多様な文化や価値観を認識できる能力」が身についていますか。
- B：「数学・自然科学に関する能力」が身についていますか。
- C：「専門能力」が身についていますか。
- D：「技術者に必要なデザインマインド」が身についていますか。
- E：「コミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力」が身についていますか。
- F：「実践的能力と論理的思考能力」が身についていますか。
- G：その他、不足している能力についてお書きください。

()

A～Fにおいて「不足」又は「やや不足」とお答えの場合に、具体的な能力を記入してください。

・・・・・・・・・・専攻科修了生の場合はH～Oを全て回答・・・・・・・・・・

[十分・ほぼ十分・やや不足・不足]

【関連する能力】

H：複眼的視点、情報収集、情報分析、言語処理、非言語処理

I：公共心、規範意識、責任感

J：工学基礎、情報収集、情報分析、非言語処理

K：分野横断思考、専門基礎

L：課題発見、情報収集、情報分析、計画立案

M：言語処理、非言語処理、感情抑制

N：計画立案、原因追及、自己理解、統率力、協働力、親和力

H：「地球的視点から多面的に物ごとを考える能力」が身についていますか。

I：「技術者倫理を意識して考える力」が身についていますか。

J：「数学・自然科学・情報技術に関する能力」が身についていますか。

K：「ものづくり・環境づくり能力」が身についていますか。

L：「技術者に求められる基礎的なデザイン能力」が身についていますか。

M：「コミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力」が身についていますか。

N：「実践的能力と論理的思考能力」が身についていますか。

O：その他、不足している能力についてお書きください。

()

H～Nにおいて「不足」又は「やや不足」とお答えの場合に、具体的な能力を記入してください。

- 5 福井高専本科卒業生が卒業時に身に付けるべき能力A～F、福井高専専攻科修了生が修了時に身に付けるべき能力H～Nの能力において、福井高専本科卒業生又は専攻科修了生に特に必要と思われるものを2つ選択してください。

本科卒業生 () ()

専攻科修了生 () ()

6 福井高専本科卒業生・専攻科修了生の印象と同時期の新卒採用者全体の印象を4段階で評価して○をつけてください。

	福井高専	新卒採用者全体
基礎学力	十分・ほぼ十分・やや不足・不足	十分・ほぼ十分・やや不足・不足
専門基礎学力	十分・ほぼ十分・やや不足・不足	十分・ほぼ十分・やや不足・不足
独創的能力	十分・ほぼ十分・やや不足・不足	十分・ほぼ十分・やや不足・不足
協調性	十分・ほぼ十分・やや不足・不足	十分・ほぼ十分・やや不足・不足
行動力	十分・ほぼ十分・やや不足・不足	十分・ほぼ十分・やや不足・不足
表現力	十分・ほぼ十分・やや不足・不足	十分・ほぼ十分・やや不足・不足
社交性	十分・ほぼ十分・やや不足・不足	十分・ほぼ十分・やや不足・不足
素直さ	十分・ほぼ十分・やや不足・不足	十分・ほぼ十分・やや不足・不足
情報処理能力	十分・ほぼ十分・やや不足・不足	十分・ほぼ十分・やや不足・不足

7. 国際社会への対応として、貴社採用時・貴学入学時に期待される語学力(英語)について TOEIC スコアーでは何点程度が必要と考えられますか。1つお選びください。

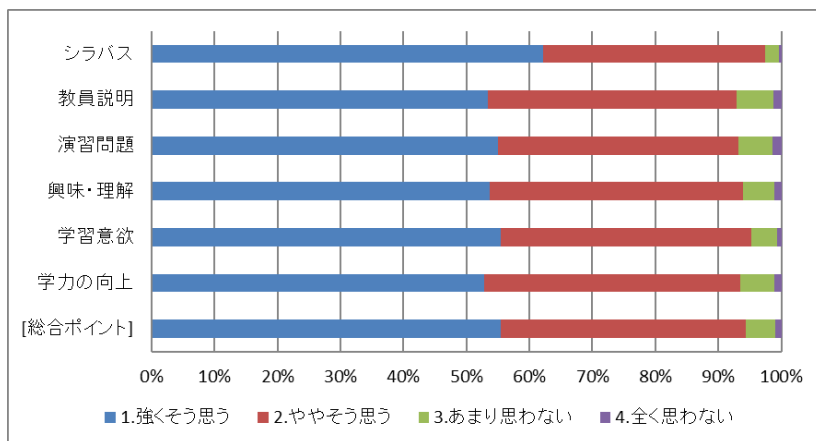
- ①点数は特に必要としない ②400 点程度 ③500 点程度 ④600 点程度
⑤700 点以上

8. 最後に、福井高専の全般的な評価やその特色、そして期待についてコメントを頂きたいと存じます。以下に記入して下さい。

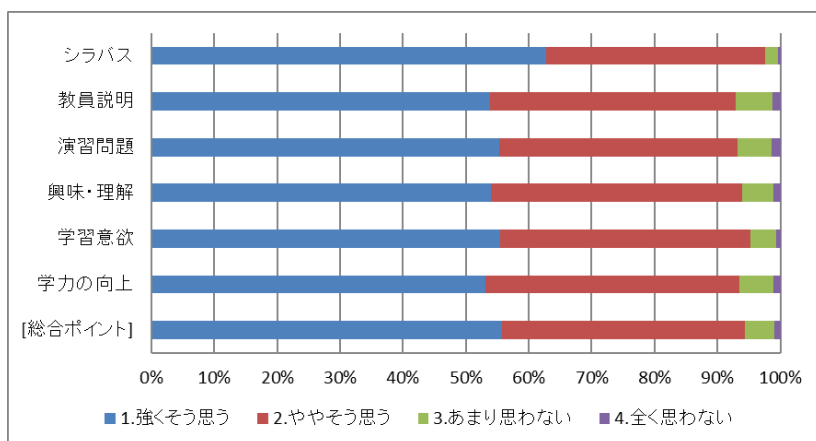
質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

令和5年度前期／通年 授業評価アンケート集計結果について

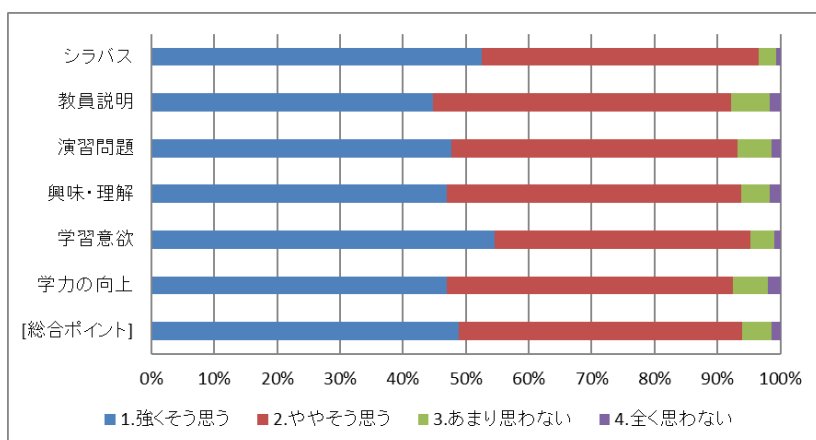
【全体】



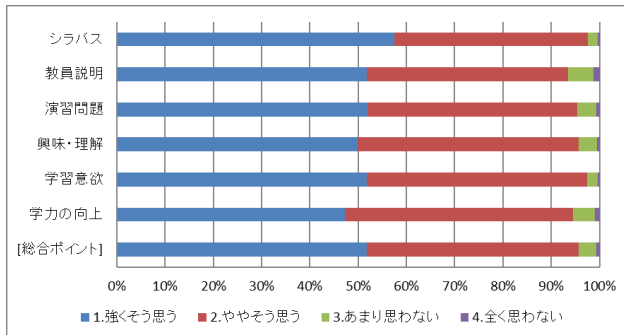
【本科】



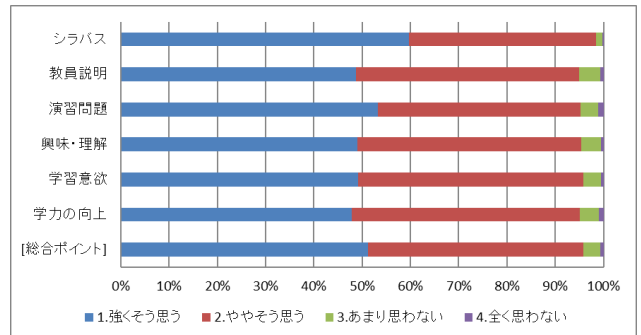
【専攻科】



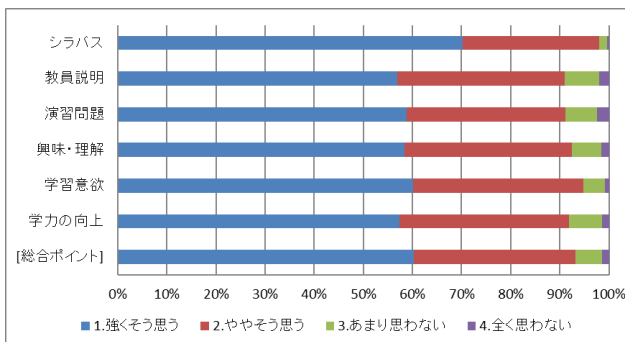
【本科 1 年】



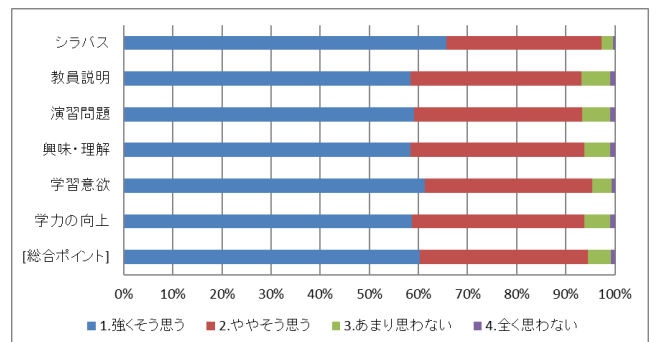
【本科 2 年】



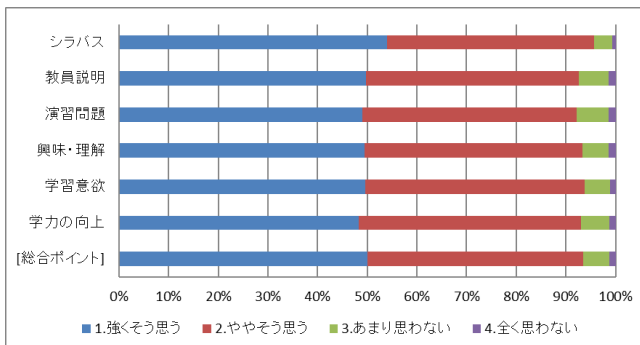
【本科 3 年】



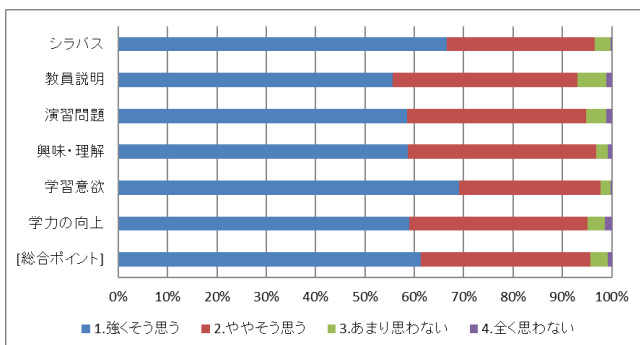
【本科 4 年】



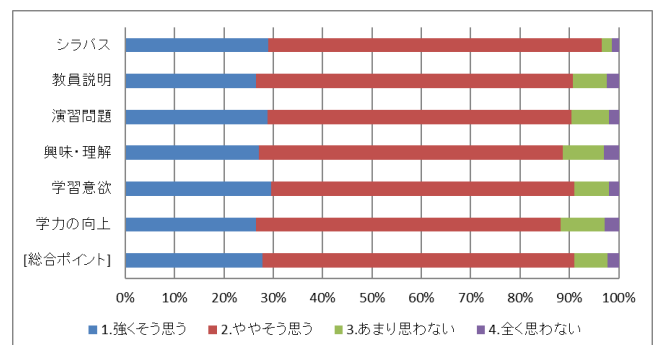
【本科 5 年】



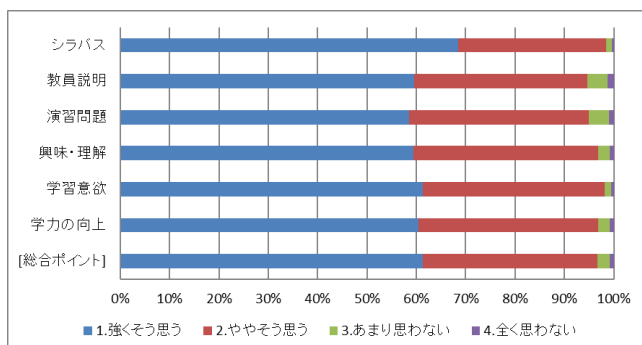
【専攻科 1 年】



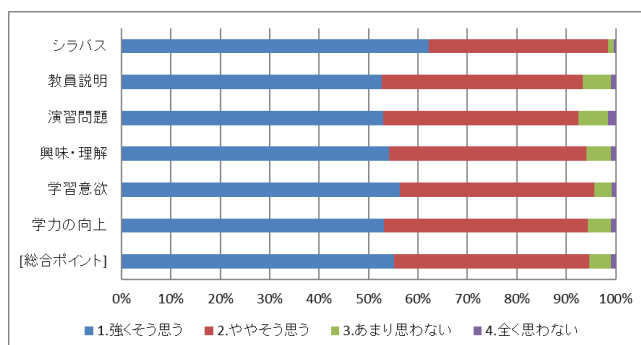
【専攻科 2 年】



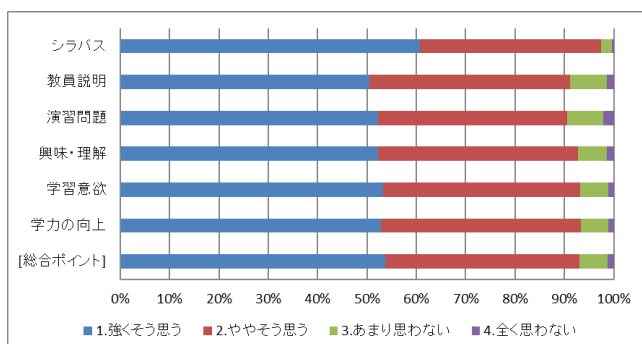
【機械工学科】



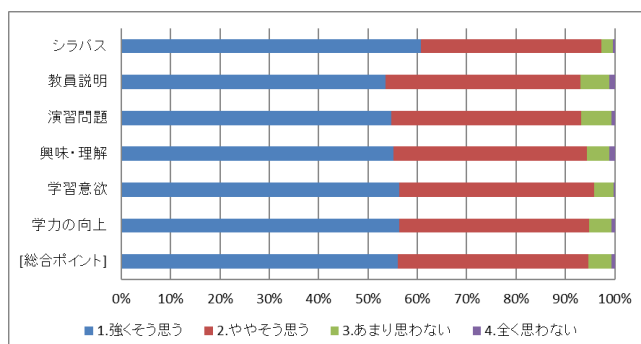
【電気電子工学科】



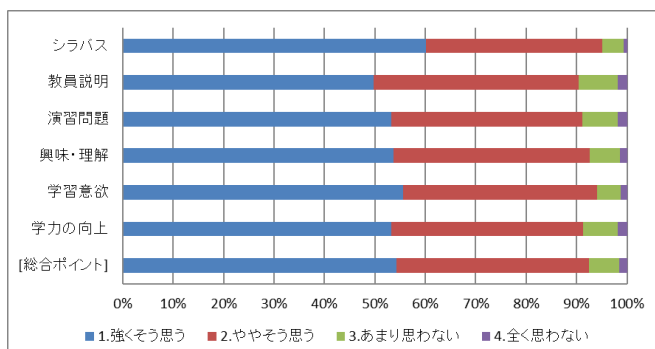
【電子情報工学科】



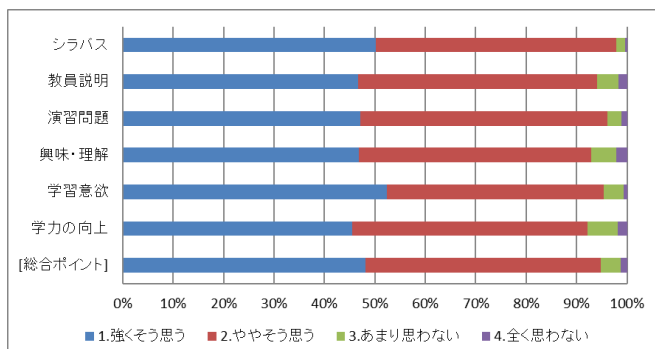
【物質工学科】



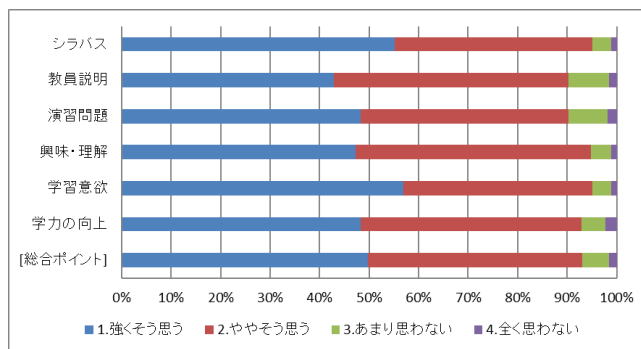
【環境都市工学科】



【生産システム工学科】

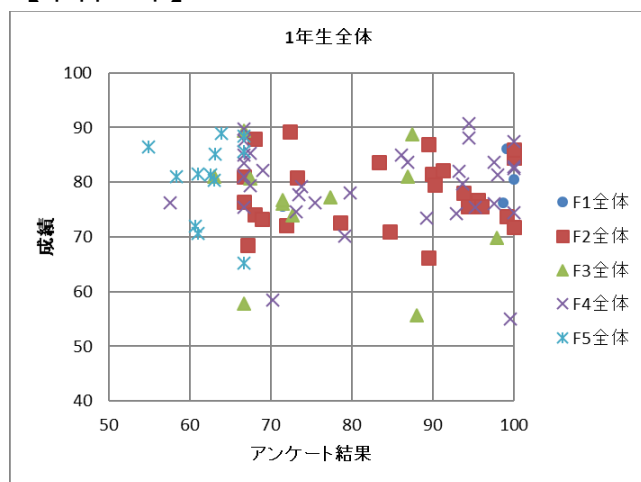


【環境システム工学科】

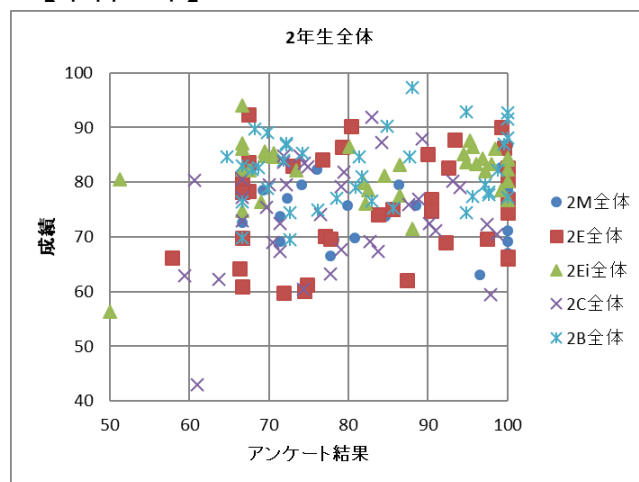


令和5年度前期／通年 授業評価アンケートと前期成績との相関について

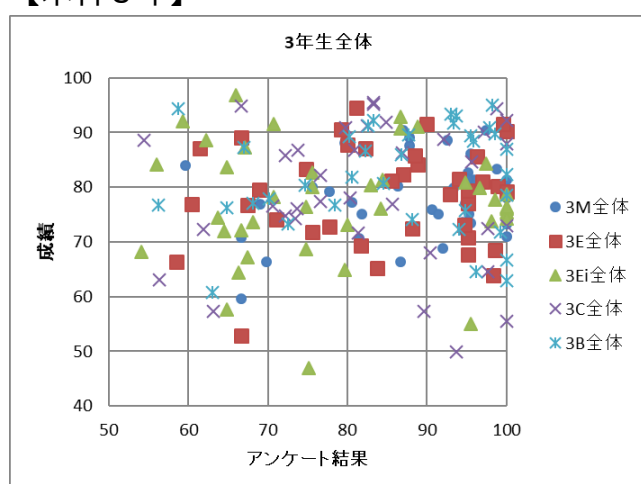
【本科 1 年】



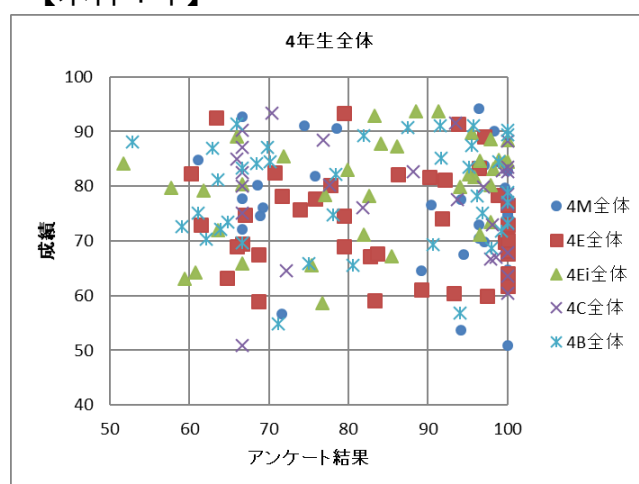
【本科 2 年】



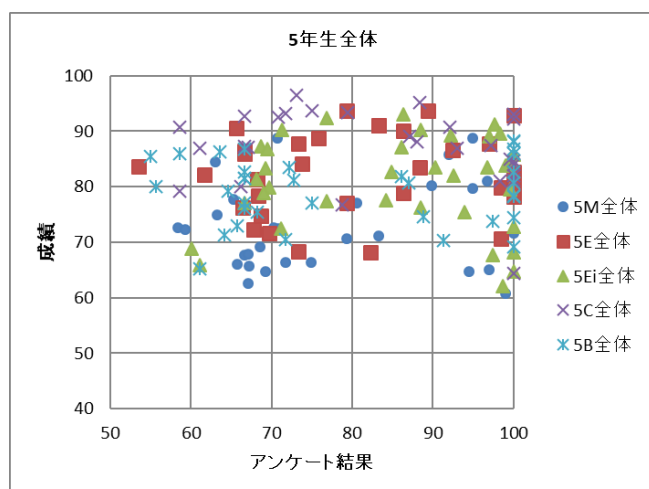
【本科 3 年】



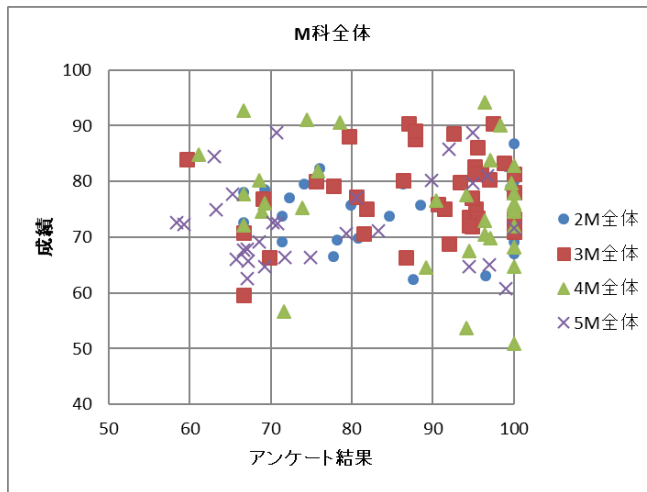
【本科 4 年】



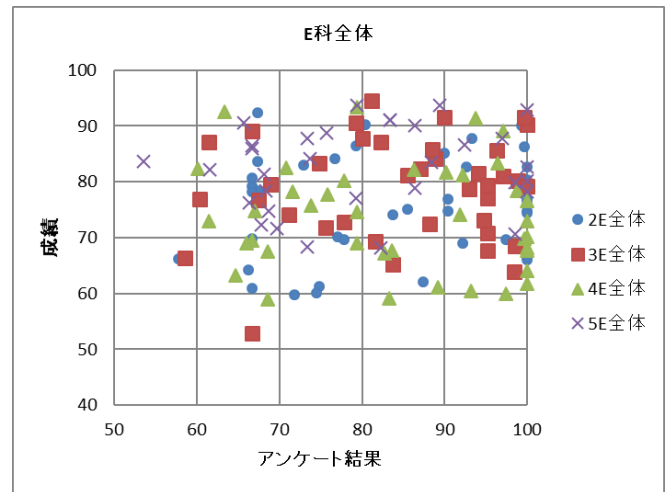
【本科 5 年】



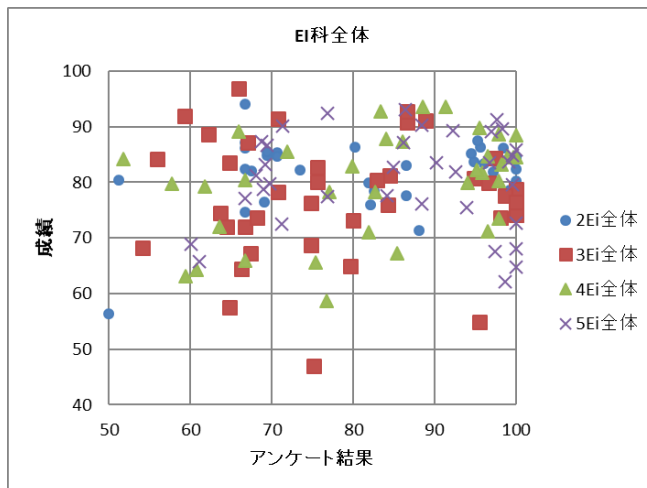
【機械工学科】



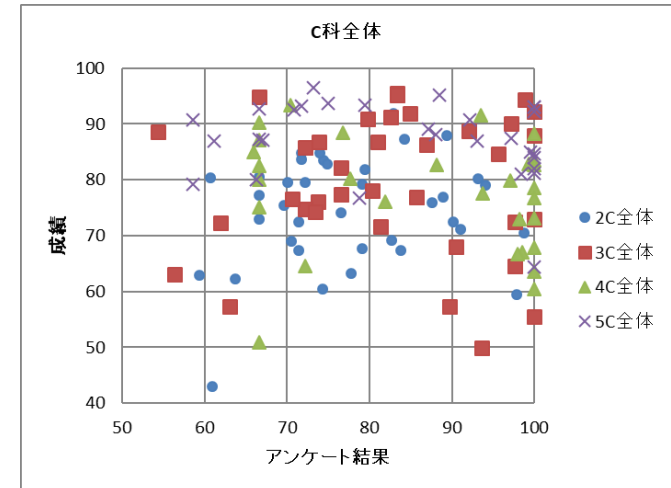
【電気電子工学科】



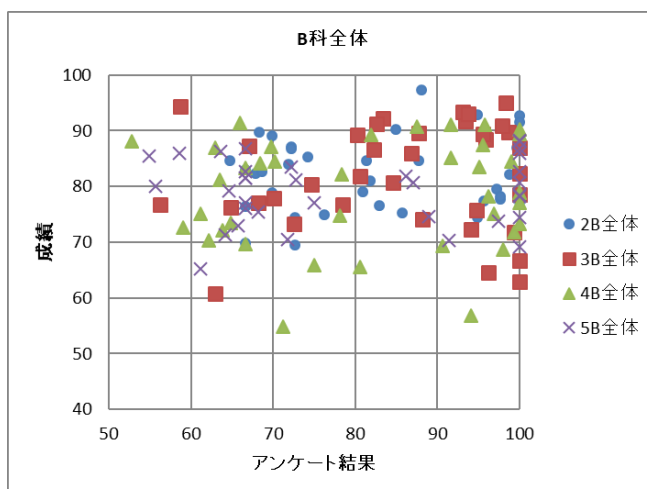
【電子情報工学科】



【物質工学科】



【環境都市工学科】

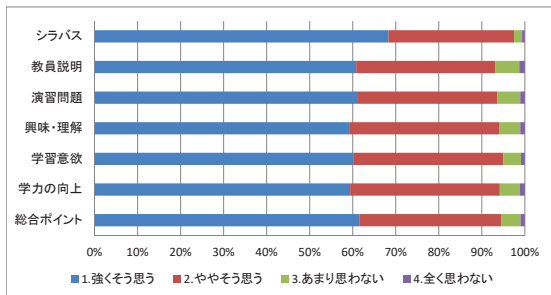


全体

令和5年度 後期授業評価アンケート

学年
学科
科目
全体

	1.強く思う	2.やや思う	3.あまり思わない	4.全く思わない	ポイント
シラバス	8964	3827	246	82	88.4
教員説明	7977	4235	737	170	84.2
演習問題	8013	4242	689	139	84.6
興味・理解	7714	4523	624	137	84.1
学習意欲	7862	4555	543	115	84.7
学力の向上	7761	4544	611	148	84.2
総合ポイント	48291	25826	3450	791	85.0

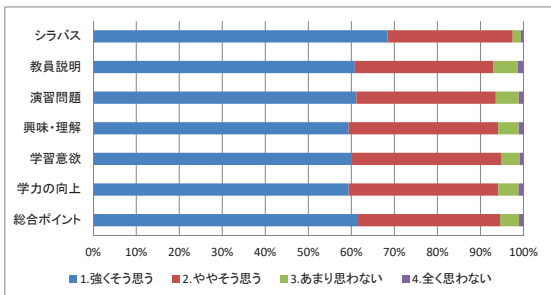


本科

令和5年度 後期授業評価アンケート

学年
学科
科目
本科

	1.強く思う	2.やや思う	3.あまり思わない	4.全く思わない	ポイント
シラバス	8637	3679	236	78	88.4
教員説明	7679	4072	712	166	84.2
演習問題	7708	4078	674	136	84.6
興味・理解	7427	4345	603	134	84.1
学習意欲	7561	4387	525	113	84.7
学力の向上	7469	4371	592	144	84.1
総合ポイント	46481	24932	3342	771	85.0

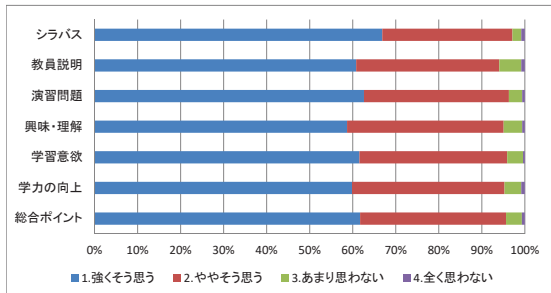


専攻科

令和5年度 後期授業評価アンケート

学年
学科
科目
専攻科

	1.強く思う	2.やや思う	3.あまり思わない	4.全く思わない	ポイント
シラバス	327	148	10	4	87.7
教員説明	298	163	25	4	84.7
演習問題	305	164	15	3	86.1
興味・理解	287	178	21	3	84.4
学習意欲	301	168	18	2	85.7
学力の向上	292	173	19	4	84.8
総合ポイント	1810	994	108	20	85.6

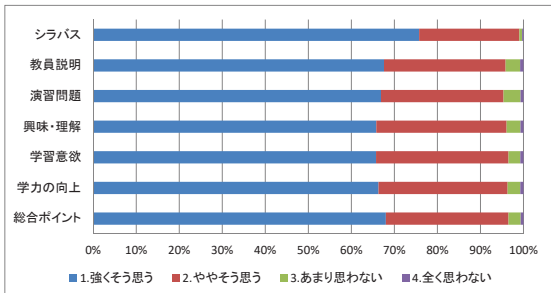


本科1年

令和5年度 後期授業評価アンケート

学年
学科
科目
本科1年

	1.強く思う	2.やや思う	3.あまり思わない	4.全く思わない	ポイント
シラバス	1979	608	17	8	91.5
教員説明	1763	737	88	20	87.6
演習問題	1746	743	103	18	87.2
興味・理解	1714	789	84	18	87.1
学習意欲	1712	802	71	19	87.2
学力の向上	1729	782	77	19	87.3
総合ポイント	10643	4461	440	102	88.0

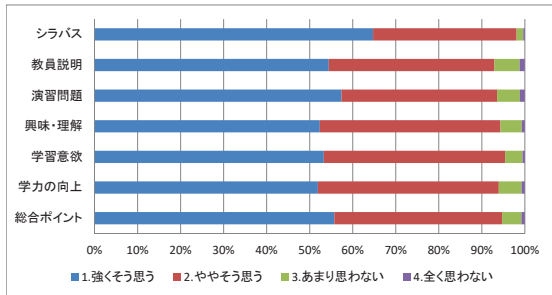


本科2年

令和5年度 後期授業評価アンケート

学年 [本科2年]
学科 []
科目 []
本科2年

	1. 強くそう思う	2. ややそう思う	3. あまり思わない	4. 全く思わない	ポイント
シラバス	1836	946	44	10	87.5
教員説明	1543	1091	166	34	82.1
演習問題	1606	1012	148	32	83.3
興味・理解	1425	1143	135	19	82.0
学習意欲	1491	1179	113	15	82.7
学力の向上	1451	1175	148	21	81.7
総合ポイント	9352	6546	754	131	83.2

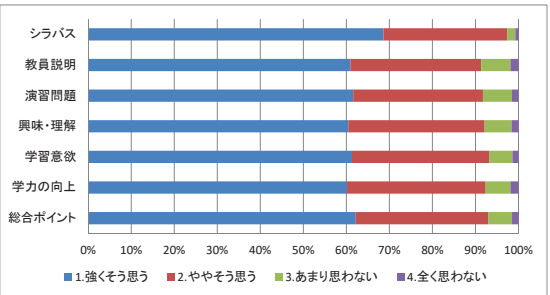


本科3年

令和5年度 後期授業評価アンケート

学年 [本科3年]
学科 []
科目 []
本科3年

	1. 強くそう思う	2. ややそう思う	3. あまり思わない	4. 全く思わない	ポイント
シラバス	1916	803	53	20	88.4
教員説明	1705	850	190	52	83.5
演習問題	1724	844	189	42	83.9
興味・理解	1691	886	175	45	83.7
学習意欲	1715	894	149	39	84.4
学力の向上	1682	901	161	52	83.6
総合ポイント	10433	5178	917	250	84.6

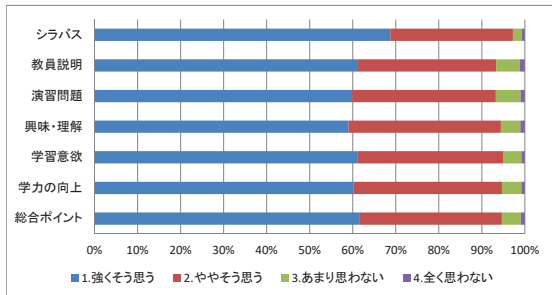


本科4年

令和5年度 後期授業評価アンケート

学年 [本科4年]
学科 []
科目 []
本科4年

	1. 強くそう思う	2. ややそう思う	3. あまり思わない	4. 全く思わない	ポイント
シラバス	1863	772	56	19	88.4
教員説明	1661	870	148	33	84.5
演習問題	1627	907	156	27	84.1
興味・理解	1602	962	123	28	84.1
学習意欲	1658	924	112	22	85.1
学力の向上	1632	937	122	22	84.7
総合ポイント	10043	5372	717	151	85.1

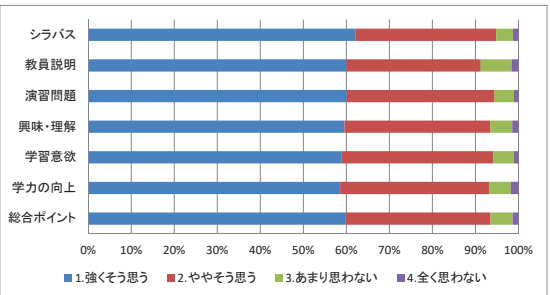


本科5年

令和5年度 後期授業評価アンケート

学年 [本科5年]
学科 []
科目 []
本科5年

	1. 強くそう思う	2. ややそう思う	3. あまり思わない	4. 全く思わない	ポイント
シラバス	1043	550	66	21	85.2
教員説明	1007	524	120	27	83.2
演習問題	1005	572	78	17	84.5
興味・理解	995	565	86	24	83.9
学習意欲	985	588	80	18	84.0
学力の向上	975	576	84	30	83.3
総合ポイント	6010	3375	514	137	84.0



専攻科1年

令和5年度 後期授業評価アンケート

学年 [] 専攻科1年

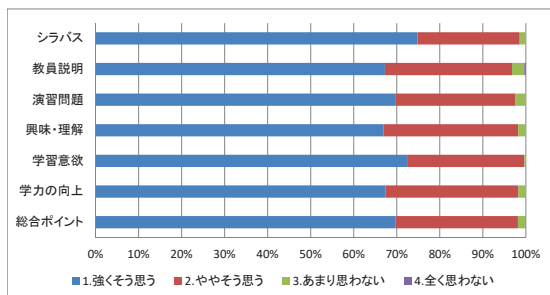
学科 []

科目 []

専攻科1年

1. 強く思う 2. ややそう思う 3. あまり思 4. 全く思わ ポイント

シラバス	211	67	4	0	91.1
教員説明	189	83	8	1	87.9
演習問題	195	78	7	0	89.0
興味・理解	188	88	5	0	88.4
学習意欲	204	76	1	0	90.7
学力の向上	190	87	5	0	88.5
総合ポイント	1177	479	30	1	89.3



専攻科2年

令和5年度 後期授業評価アンケート

学年 [] 専攻科2年

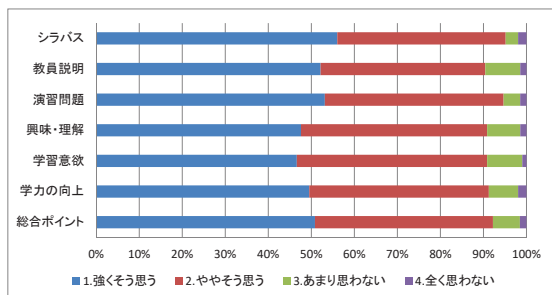
学科 []

科目 []

専攻科2年

1. 強く思う 2. ややそう思う 3. あまり思 4. 全く思わ ポイント

シラバス	116	81	6	4	83.1
教員説明	109	80	17	3	80.4
演習問題	110	86	8	3	82.1
興味・理解	99	90	16	3	79.0
学習意欲	97	92	17	2	78.8
学力の向上	102	86	14	4	79.6
総合ポイント	633	515	78	19	80.5



機械工学科

令和5年度 後期授業評価アンケート

学年 []

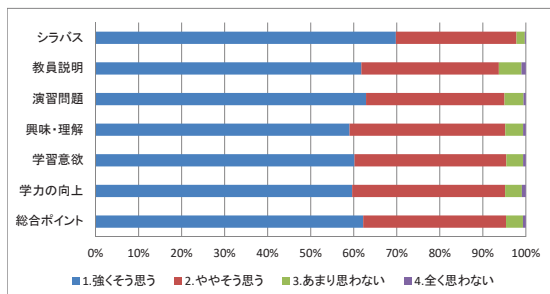
学科 [] 機械工学科

科目 []

機械工学科

1. 強く思う 2. ややそう思う 3. あまり思 4. 全く思わ ポイント

シラバス	1447	581	40	5	89.1
教員説明	1282	663	109	21	84.8
演習問題	1306	668	92	11	85.8
興味・理解	1226	752	86	13	84.5
学習意欲	1250	733	81	13	85.0
学力の向上	1238	738	81	19	84.6
総合ポイント	7749	4135	489	82	85.7



電気電子工学科

令和5年度 後期授業評価アンケート

学年 []

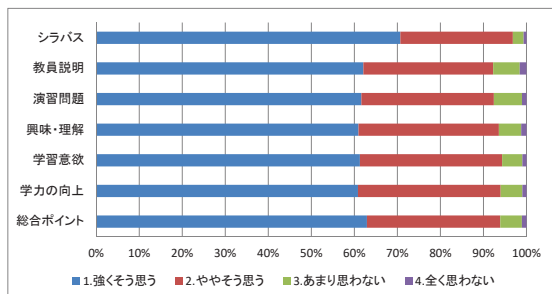
学科 [] 電気電子工学科

科目 []

電気電子工学科

1. 強く思う 2. ややそう思う 3. あまり思 4. 全く思わ ポイント

シラバス	1498	554	53	14	89.0
教員説明	1317	640	131	33	84.3
演習問題	1309	654	139	22	84.3
興味・理解	1293	692	110	26	84.4
学習意欲	1302	702	100	20	84.9
学力の向上	1291	704	107	20	84.6
総合ポイント	8010	3946	640	135	85.3

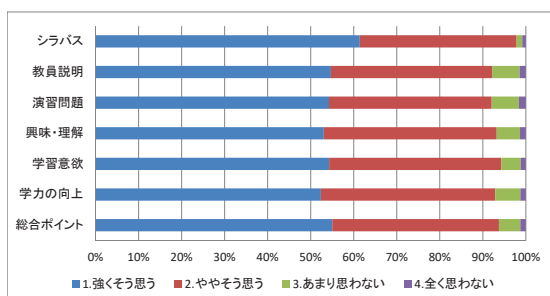


電子情報工学科

令和5年度 後期授業評価アンケート

学年 []
学科 [電子情報工学科]
科目 []
電子情報工学科

	1. 強くそう思う	2. ややそう思う	3. あまり思わない	4. 全く思わない	ポイント
シラバス	1329	789	28	18	86.2
教員説明	1181	809	138	31	81.8
演習問題	1171	816	136	35	81.6
興味・理解	1145	867	117	29	81.6
学習意欲	1171	863	97	26	82.5
学力の向上	1128	873	126	27	81.3
総合ポイント	7125	5017	642	166	82.5

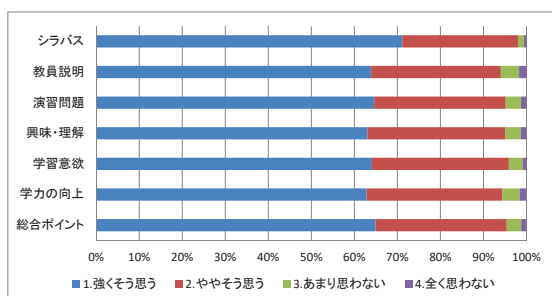


物質工学科

令和5年度 後期授業評価アンケート

学年 []
学科 [物質工学科]
科目 []
物質工学科

	1. 強くそう思う	2. ややそう思う	3. あまり思わない	4. 全く思わない	ポイント
シラバス	1376	520	26	12	89.5
教員説明	1234	582	82	33	85.4
演習問題	1247	590	69	24	86.2
興味・理解	1216	617	71	25	85.6
学習意欲	1236	614	62	17	86.4
学力の向上	1209	607	78	30	85.2
総合ポイント	7518	3530	388	141	86.4

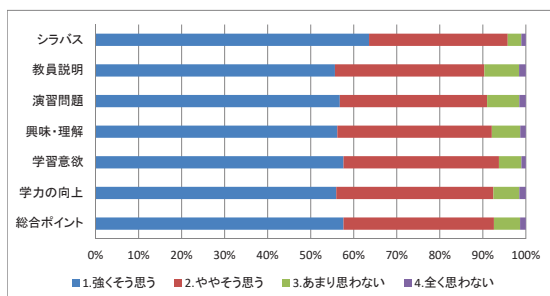


環境都市工学科

令和5年度 後期授業評価アンケート

学年 []
学科 [環境都市工学科]
科目 []
環境都市工学科

	1. 強くそう思う	2. ややそう思う	3. あまり思わない	4. 全く思わない	ポイント
シラバス	1455	738	72	24	86.1
教員説明	1277	797	185	36	81.5
演習問題	1282	773	169	34	82.1
興味・理解	1225	783	144	28	82.3
学習意欲	1300	815	118	23	83.5
学力の向上	1261	823	136	34	82.3
総合ポイント	7800	4729	824	179	83.0

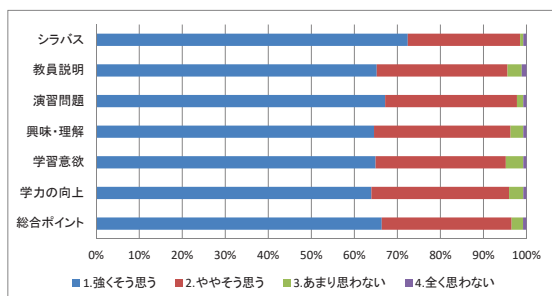


生産システム工学専攻

令和5年度 後期授業評価アンケート

学年 []
学科 [生産システム工学]
科目 []
生産システム工学専攻

	1. 強くそう思う	2. ややそう思う	3. あまり思わない	4. 全く思わない	ポイント
シラバス	197	71	2	2	90.1
教員説明	178	83	9	3	86.6
演習問題	182	83	4	2	88.1
興味・理解	175	86	8	2	86.7
学習意欲	176	82	11	2	86.5
学力の向上	174	87	9	2	86.4
総合ポイント	1082	492	43	13	87.4



環境システム工学専攻

令和5年度 後期授業評価アンケート

学年 []

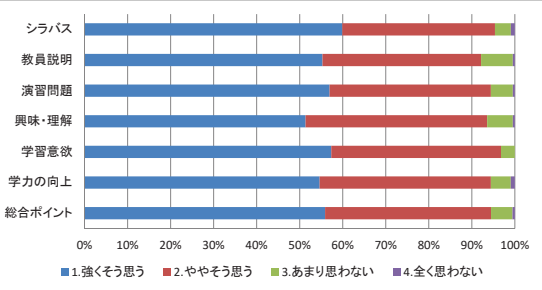
学科 [環境システム工学]

科目 []

環境システム工学専攻

1.強く思う 2.ややそう思う 3.あまり思 4.全く思わ ポイント

シラバス	130	77	8	2	84.8
教員説明	120	80	16	1	82.3
演習問題	123	81	11	1	83.6
興味・理解	112	92	13	1	81.5
学習意欲	125	86	7	0	84.7
学力の向上	118	86	10	2	82.7
総合ポイン	728	502	65	7	83.3



発行日 令和6年6月10日

編集 独立行政法人国立高等専門学校機構 福井工業高等専門学校
創造教育開発センター

発行 独立行政法人国立高等専門学校機構 福井工業高等専門学校
〒916-8507 福井県鯖江市下司町
TEL : 0778-62-1118 <https://www.fukui-nct.ac.jp/>